

外30724

88  
47

特 18  
~~788~~



思  
錄



二之卷





Василий Иванович Мухоморов  
г. Воронеж. Родился 1860 г.



靜思錄



露國クロンシタット長司祭

イオアン、セルギエフ述

(一)  
 ○天に在す我等の父よ』聖堂の多人相會する所に或ハ一家團樂の間  
 に或は學生の集會に或は兵士の集合する所に於て眞に同一の心同一  
 の口を以て赤心より此言を發するときは如何に感動すべき高尚靈妙  
 の美觀ぞや。此言は果して人々の實行上に應驗し皆互に兄弟たる相愛  
 の情を懷き幼ハ長に服し智の足らざる者は足る者に聽き互に義務を  
 盡し互に相敬し禮義を以て相讓り(羅馬十二の十)相和して生活するを



(二)

見ば如何に高尚の美觀ぞや。血縁相異なる多數の家族と食卓を共にし  
 皆同一の口同一の心にて『我等の父よ』と唱ひ惟一の天父を至聖の王と  
 認め獨り彼の旨の此世に成らんことを望み獨り彼を萬民の養育者と  
 認むるときは眞に是れ何等在天の偉觀ぞや。一家の主人が己の幸福と  
 飲食とを以て己のものどせず之を神のものとし神の賜を以て萬民共  
 有のものと爲し己を他の人々と同列にし他人を饗應するに非ずして  
 自ら饗應を受くるが如くするに於ては果して何等高尚の美觀ぞや。若  
 し夫れ万國万民舉りて同一の口同一の心にて天に向ひ天に在す我等  
 の父よ願くは爾の名に我等衆人の間に聖とせられ爾の國は太古犯罪  
 前の如くに來り爾の慈悲完全なる旨に天に於けるが如く此世に於て

(三)

も永遠に行はれ我儘の跋扈せざらんことを願く我が日用の糧を今  
 日我等に與へ給へ我等に債ある者を我等免すが如く我等の債を免し  
 給へ云々と唱ふるが如きことあらば於戲是れ何等感動すべく喜ぶべ  
 き。美觀ぞや。人皆斯かる思想斯かる希望を有したらんに、果して如  
 かにぞや。されども必ず此事成るの時あらん。蓋し此世に生活する者は  
 皆相率ゐて惟一の牧者の下に一の群と爲るの時至らんとすればなり

(約翰十の十六)

○主は天使の智と雖も端倪驚嘆すること能はざる睿智と仁慈と全能  
 とを至聖童女マリヤよりの籍身に於て吾人に顯はせり。『天使は皆爾の  
 藉身の大事業に驚嘆せり。蓋し神として近づくべからざる者衆人に近



(四)

づくを得べき人として顯はれたればなり「生神女讚詞」光榮は爾の仁慈に歸す。光榮は爾の鴻恩に歸す。光榮は爾の睿智に歸す。光榮は爾の能力に歸す。主は己の藉身に由りて舊約時代に於て人の未だ知らざる若くは爾く明確ならざる教理の秘密を悉く明確に吾人に教示せり。吾人は幸の罪人の彼の藉身に由りて彼の至淨なる体血を領し最も親密に彼と体合し我等彼に居りて彼亦我等の裡に居るなり。至聖童女たる生神女は彼の藉身に依りて吾人の至仁なる保護者と爲り罪惡災難不幸より吾人を庇ふ者と爲り日夜吾人の爲に祈る者と爲り其勢力に對しては見ゆると見えざる如何なる敵たりとも對抗すること能はざる吾人の女王、女幸と爲り主の十字架の上に於て其門徒イオアンに向ひ是れ爾

(五)

の母なりと云ひ又其母に向ひて是れ爾の子なりと宣ひたる言に應じ恩寵に由りて吾人の母と爲れり(約翰十九の廿六、廿七)主よ爾の鴻恩に光榮を歸す。

○吾人は朽つべく消え失せべき金銀の光に戀々として己の眼光を天上にある永遠の喜ぶべき光より遠ざけ或は有害にして身靈を毀傷する浮雲的の朽ち果つべき慾に沈りて己の眼光を永遠靈妙の樂神を仰ぎ觀るの快味より遠ざけ或は此世の虛榮を得んことに汲々として其目を天職の名譽神の子神の永遠の國の嗣たる名譽より遠ざけ以て己の神に似たる不死の靈を卑うす。嗚呼浮世の虛よ。嗚呼俗界の慾よ。ハリスティアンよ上を見よ。



(六)

○此世と來世に於ける最高の幸福は夫の永遠に生活して完全至福なる神是あり此幸福を求め得て之を己の心中に抱持する者は最大幸福の人あり其他凡そ此世の幸福と見做るゝものは皆是虚なり空なり我が傍にあり或は我が裡にあるものは我を形づくるものに非ず現に我が纏ひ居り我をして此世の存在の一部分たらしむる我が肉体すら其實我を形づくるものに非ず。

○「其譽へ人に由るに非ず乃ち神に由るあり」羅馬二の廿九と録されたる何の意ぞ是れ何人に對する譽なるか他なし内心にて冥々裡に神に事ふる者良心に循ひて事を行ひ世の毀譽褒貶若くは人間の名譽等に意を介せざる者是なり而も吾人は譽を人より求めて夫の光榮の神

(七)

なる神より之を求めず吾人は此世の褒賞記章勳章等を求む。

○聖十字架の天に於てコンスタンティン大王に現はれたるは何故ぞ他なし吾等の主自ら并に諸使徒及び致命者の軍勢が皆悉く十字架に由りて榮に入りたるを示さんが爲め十字架が打勝たれぬ勝利にして惡魔が十字架にて挫かれ將來又ハリストスの十字架若くは「ハリステイアニン」の諸敵も同じく之れ(十字架)にて挫かるべく惡魔が「ハリステイアニン」の窘逐者に由りて其作用を逞うし之を撃ち敗るに十字架を以てすべきを示さんが爲め窘逐せらるゝ「ハリステイアニン」がハリストスの肢ハリストスの兵にして常に神ハリストス及び其十字架の守護の下に在るを示さんが爲なり。



○『視よ爾は癒えたり復た罪を犯す勿れ』約翰五の十四罪と慾とが身靈の健康を害し慾に克つことが靈魂に無上の安慰を予へ身軀を健全にすることは實驗の證する所なり。汝須く罪の多頭の蛇に勝てよ然らば健全たらん。汝須く心中を安穩にして激することなく如何なる反抗侮辱不正不義を蒙るとも憤激する勿れ、さらば汝の常に身靈の健康に樂まん。憂悶憤激及び慾火は吾人に身靈の勝て敷ふべからざる疾病を生ずるあり。

○他人を治めんとせば先づ己を治めんことを學ばざるべからず、他人を教へんとせば先づ自ら知識を求めざるべからず、我自ら己を治むるの方を知らず自修克己の精神、溫柔神聖相愛公義の精神我にあらざり

せば我は乃ち不良の治理者なり諸慾我を制する間は我は寧ろ他人を御するの任を執らす以て己れ及び他人に大害を加ふることなきを可とす。

○主は我が死に於ける生命我が荏弱に於ける勢力我が幽闇に於ける光我が悲哀に於ける喜悅、我が怯懦に於ける勇敢、我が慄惑に於ける安慰、我が祈禱を聴納する者、我が侮辱に於ける榮譽、我を侮辱より救脱するものなり、我の災難憂悲誘惑に際して彼の我を保護救脱するものと不可思議にして有力且つ迅速なり、我れ彼を頼んで救を求むれば無形の敵は我が裡に跋扈したる後、我より避けて我は明々地に我が身の上に我が神、我が救世主の救贖の能力を感觸す、我が靈魂の牧者及び來臨



者に光榮感謝を歸す。

○祈禱するに當りて多くの罪に惱され失望に蔽はるゝ時は希望を以て燃ゆる精神を以て祈禱し神の神の我等の荏弱を助け自ら言ふべからざる慨嘆を以て我等の爲に求むる羅馬八の廿六を記憶せよ。汝苟も信を以て此の我等に對する神の神の作用を記憶せば感激の熱涙は汝の目より流れ出て汝の心中に安和と快樂と義と聖神に由るの歡喜羅馬十四の十七とを感觸し汝は心の言にて阿爸父よと叫ぶに至らん。

○神の無所不在は空間的にして且理想的なり即ち神は空間的の關繋に於て到る處に在り又理想的關繋に於て到る處に在るあり予は身体にて若くは思想にて何處に往くも到る處として神に遇はざるなく到

る處として神我を迎へざるなし。

○汝の祈禱するに方りて確然祈禱の言の効力を信し祈禱の言其者を之にて言ひ顯す所の事實より分つべからざるよと必要なり主に言と行と相分たれざるが故に言に事實の隨ふよと猶影の形に従ふが如きものと信すべし。蓋し彼れ言ふて即ち成り彼れ命じて即ち造られたり『聖詠百四十八の五』されば汝は汝の祈禱に於て言ひし處のこと求めし所のものは必ず成ると信せよ。汝頌讚せんか神は汝の頌讚を受けたるなり汝主に感謝せんか神は汝の感謝を靈妙なる芳香の内に受けたるなり吾人が薄信にして言と行を分つよと恰も身体を靈魂より分ち型を實體より分ち影を形より分つが如く祈禱に於ても肉に屬して



神を有たざる者の如く猶太一の十九するは是れ吾人の不幸にして吾人の祈禱の無結果なるは實に之が爲なり。

○我が目と我が心の恒に其處にあるべし(列王紀上九の三)其處にとは即ち立て祈る者の心に専ら多く在るを謂ふなり蓋し至上者は手造の殿に居らさればなり睿智なるソロモンの書に於て此言を誦する何ぞそれ快なるや主宰の目は神の殿に於て吾人各人に向ひ主宰の心は吾人各人に向ふ之れより更に接近せんことを促し得べきか主の心其者は我に向へり汝の時として人と相對して談するゝとあらんに彼の心は汝に向はずして他事に傾注することあるも神の心は始終汝に向ひ彼の愛彼の仁慈彼の恵は汝の信に従て悉く彼より汝に注がれんとす。

○吾人が祈禱に於て聖人を願ふとき心中より彼等の名を誦するは是れ吾人が己の心に彼等を近づけんとするに依るなり此時に於て汝は疑ふことなく彼等の祈禱と代求とを求めよ然らば彼等は汝の言を聴納れて在らざる所なく知らざる所なき主宰に直に瞬く間に汝の祈禱を捧げん。奉獻禮儀に於て主イエススハリストス若くは其至淨の母及び諸聖人を願ひ祈り又ハ生者及び死者を祈念する時はその割き取られたる部分其者は主若くは其至淨の母若くは或聖人若くは其の祈念する多くの聖人と生死者總体を代表し恰も之に代りたるが如きものと成りて其誦名に於て想起する所のものハ願はるゝ者若くは祈念せらるゝ所の者の靈魂を代表して之が代りと爲るなり是の如く吾人の



口吾人の心に悠遠なる天上界のもの、微々たる形に於て反映す而も  
此事たる皆信仰に由り夫の獨り有る者にして到る處に在し万事を盈  
たすの聖神に由りて成るなり。

○手の祈禱するに當りて確信す第一神は獨り有る者にして盈たざる  
所なき者隨て我が右に在る者なり、第二手は彼の像なり、第三彼は無限  
の仁慈及び第四凡ての仁慈の源にして彼自ら我に委ぬるに彼に祈禱  
するの權を以てしたりと。

○石若くは木の屑又は其他何たるを問はず凡て上に投ぐるものは其  
の之を投ぐる場所如何に由りて必ず地上若くは水中に落下するが如  
く祈禱の言も若し赤心より之を發せば必ず神に達す只若し赤心より

せず偽りて發する時は毒蛇の淵詐偽の海即ち自ら詐偽なる魔鬼の海  
に落下するなり。

○主の萬物を盈たし萬物の彼の前に對して恰も地に降る朝露の滴の  
如く秤重器の盤の動くが如く(所羅門睿智書十一の廿三)主の微草塵埃  
に至るまで之を己の右の手に保ち造物の大小を論せず恰も空間を全  
く盈すもの、如く無限に存在す何とあれば彼は惟一の存在なればな  
り是を以て彼は己を有る者と稱す(出埃及記三の十四)即ち我の有る所  
の者ありとの意あり。

○物は如何に微々たりとも苟も存在する以上は萬物を盈たし萬物を  
保つの主も亦存在するなり何となれば物体は偶然にして存在し而も



万物を造りたるの主存在せずとの理焉んぞ之あるべけんや。是れ愚の至なり。若し一塵埃たりとも之をして自然に任せしめ之れより神の存在と維持力とを絶たば其存在を保つ能はず。凡そ造られたるもの一も彼に由らずして造られしは無し。『約翰一の三』

○吾人と神との体合は未來に於て必ず成るべく而して其体合が吾人の爲め皎潔平和歡喜福樂の源たるべきこと。吾人已に現世に於て實驗上其一端を悟了す。祈禱に由りて吾人の靈魂全く神に向ひ之と合する時は吾人の靈魂全く神に向ひ之と合する時。吾人は爽快安穩喜悅の感を爲すこと。恰も母の懷に抱かれて嬉々然たる嬰兒の如く若くは我等此に居るの善し。路加九の三十三底の言語の得て形容すべからざ

る好感情を起すべし。夫れ然り故に汝等已に現世に於て其一端を實驗する未來の終りなき幸福の爲め屈せず撓まずに勧めよ。只記憶せよ。汝等が此世に於て實驗する所のもの。只其一端を窺ふに過ぎざる。此世の不完全ある初果にして恰も鏡に縁りて見るが如く。見ること朦朧なるを。哥林多前十三の十二參看。吾人若し實際誠實に神と体合し。形と影は過ぎ去りて眞理と實見の國來らば。果して如何にぞや。ア、吾人の未來の幸福の爲め來世に於て神と体合せんが爲め死に至るまで盡瘁せざるべからず。

○太陽と星宿の如何に燦然たるかは汝等見る所の如し。義人も亦時。到れば神の内部の非物質的の光に由りて日の如く輝かんとす。馬太十三



の四十三天使の地に顯はる、時の概ね常に其四邊に光輝燦然たり汝等亦須らく此の如く光輝を放たんみとを力め幽暗の行を放擲せよ吾人の己の本性を高尚にして神性に接觸するを得べし而して神は凡ての造られたる光に勝るの造られざる光なり。

○噫人よ予汝を顧み汝の此世の五官汝の肉体を見汝の誕生日と汝の幼年時代より今日に至るまで汝の生長し來りたる年月を回想し翻へつて汝の死の日を想像し次で夫の創世以來汝に預定せられたる永世を想起せば予は汝の微々たるに驚嘆すべきか將又汝に生命を賜ひ汝の朽ち且死すべき肉体と不死と爲さんとする造物主の全能と仁慈とに驚嘆すべきか予甚之を知るに苦む予は永遠の王なる主神が血肉的

の汝をして己の体血を領食せしむるを見て我が驚嘆の念益々大なり、何となれば主は汝をして永遠に生活せしめんが爲め肉体にありし日親しく肉と血とを受けたればなり(希伯來五の七、二の十四)

○死せし人は生ける者なり『神は死者の神に非ず乃ち生者の神なり蓋し彼にありては皆生くるあり(路加廿の三十八)人間の靈魂の冥々裡に身体及び其の居らんと欲する所に居るなり靈魂若し罪を犯して死したらんには自ら力を盡して其の束縛より脱する能はず生存する人々就中ハリストスの至聖なる新婦たる教會の祈禱を要するや切あり夫れ然り故に吾人は誠心死者の爲に祈らん是れ彼等に對する至大の恩恵にして生者に對する恩恵に優るものなり。



○主が萬有の目を以て清朗駘蕩たる天候の目を以て恵み深き此世の者を見る時の皆爽快と爲り浩蕩たる東風吹くときは諸人の身体靈魂共に長閑く冷かにして濕りたる空合と爲るときは眞靈共に一種の重荷を擔ひたる如き感を爲し疾病に呻吟する者多し萬有の人間に其影響を及ぼすこと此の如く強くして人は到底之を避くる能はず而して最も著目すべきは世俗の情慾に束縛せらるゝことの薄き人口腹の慾に沈けるの最も淺き人飲食を節制する人に對しては萬有の影響良好にして之を惱まざす少くとも天性及び肉体の奴隷たるものゝ如く甚しからざることなり吾人の生命が主に在りて感情的のものに存せざること夫れ此の如く明白なり主が万物に在り凡の事を凡の人の中に

行ふ(哥林多前十二の六)こと夫れ爾く明白あり空氣に於ては彼は吾人の呼吸食物に於ては吾人を飽き足らしむるもの飲料に於ては吾人の渴を醫すもの衣服に於ては吾人の服住所に於ては吾人の庇廕温暖及び安慰睡眠に於ては吾人の安息清淨潔白なる教訓的の言に於ては吾人の言相互の愛に於ては吾人の愛なり主主宰吾人の造者及び恩者よ、吾人をして常に一瞬一秒たりとも生命の有らん限り吾人が爾に頼りて生き且動き且存し行實十七の廿八爾に依りて生命と呼吸と有らざるものを有することを記憶せしめよ、れども吾人若し前掲の諸事に於て神の成規を犯すに於ては彼が吾人の重き罰となることを記憶すべし即ち空氣に於ても吾人の罰と爲り飲食に於ても吾人の飽食及び



渴を醫すものと爲らずして或はこれを厭ふものと爲り或は疾病と爲らん食物の其用を爲さずと云ふ場合の如きは是あり衣服及び住居に於ては憂鬱若くは精神の狂と爲り睡眠に於ては安息と爲らずして驚愕及び不安心と爲り言に於ては束縛と爲り邪なる愛に於ては胸を焦がすの苦痛と爲るなり罰の源は吾人の邪なる嗜好に於て表現するを例とす蓋し凡そ其の犯す所の罪にて自ら苦むなり(睿智書十一の十七)  
 ○吾人の聖教の真正及び救贖的なる所以は一の機密たりとも信仰より出る一の祈禱たりとも徒然に歸せず乃ち天より其効力を携へ來りて吾人の身靈に之を顯はし吾人の罪を淨め吾人の靈魂を慰め救主の凡そ勞苦する者及重きを任ふ者は我に來れ我汝等を安んせしめん(馬

太十一の廿八)と宣へる言に基つき吾人の心中の憂悲を去り身體の疾病を愈すに依りて之を確知すべし然り々々吾人が吾主若くは至聖生神女若くは天使及び諸聖人に祈るもの決して徒然に歸せずして救贖に關して祈願する所のものは悉く之を受け醫治及び諸種の扶助の能力に常に天より吾人に降る吾が主は實に吾人に賜はる諸種の能力の主にして吾が神は矜恤救贖する神なり藉身したる神言の永貞童女たる母も亦己の子及び神たる者の仁慈に倣ひ吾人の爲に祈りて止まず常に信者に己の能力を顯はす吾人は絶えず吾人の上に顯はさるる神の母の救贖力を感得しつゝ彼に頼んで「生神女よ我等不當の者決して爾の能力を宣揚することを黙するもとなけん蓋し爾若し祈禱せずん



ば誰か能く我等を斯かる災より救はんや……』と云ひ或は「恒に爾の能力を顯し給へ……』と云ひ凡そ憂悲困苦災厄に於て彼に依頼すべし。天使及び諸聖人に就ても亦爾か言はざるべからず。蓋し吾人が彼等を顧ぶ時は彼等吾人の言ふ所を聽き神の恩寵に由りて吾人に佑助を垂るるなり。

○肉体的の人は祈禱及び徳義より出づる靈妙的の幸福を悟了せず彼の世に於ける幸福の如何なるものなるべきや聊かたりとも之を悟る能はず。此世の肉体的の幸福以上のものは彼毫も之を知らず。來世の幸福は彼之を空想と見做すのみ。只夫れ屬神的の人は實驗に依りて有徳なる靈魂の幸福を識り心中にて預め來世の妙味を嘗む。

○人が屬神的の生活に進歩するに従ひて益々屬神的と爲り萬事に於て神を見萬事に於て神の能力と全能の表顯するを見常に到る處に於て己れの神に居り萬事徹々たる事に於ても神に關繫するを感ず。之に反して人は肉体的の生活に耽るに従ひ全然肉体的のひと爲り何事に於ても神を見ず彼の神性的能力の最も奇異なる表顯に於ても之を認めず。萬事に於て肉体と物質とを見るのみにして到る處何れの時お於ても彼の目の前には神なきなり(聖詠三十五の二)

○主は善き牧者と稱せられ(約翰十の十二)且實際善き牧者なり。汝若し彼の指導を信せば夫の親切なる羊牧者が其群を林中に牧するに當り之をして林中に散亂せしめずして之を一所に集むる如く主も吾人の



靈魂を救するに當り之をして詐偽と罪惡中に彷徨せしめず乃ち之を徳義の途に集合し無形の狼をして之を掠め之を散せさらしむべきを心中に悟得せん。

○惡魔の本質たる單純にして瞬く間に惟一の意思を以て吾人を襲ひ吾人の心に侵入するが故之を排撃するにも亦瞬く間に詐偽の敵に對する惟一の利器たる真理の勢力を充分包含する衷心より發する有力の一言を以てせざるべからず。救主は此意味を以て智きこと蛇の如くなれと言へり馬太十の十六即ち夫の無形の蛇の迅速敏捷に地獄的の智を以て常に吾人を襲ひ吾人を攻撃顛覆するの好機會を窺ひ吾人の弱点及び習慣を審察し其攻撃多くは正鵠を失はざる如くせよとなり。

されど之と同時に救主は又玷なきこと鶴の如くなれと云はれたり即ち質朴にして怨恨を懷く勿れとの意にして獨り伶俐なる点のみ蛇に倣へされど汝の心は質朴廉潔にして腐敗せしめず溫柔謙遜なること我の如く怒らず激せず——蓋し人の怒は神の義を行はざればなり(雅各一の二十)——身靈の諸の汚穢に染まらずして己を清潔に守れとなり。

○吾人の靈魂は屬神的主動的の者なるを以て悠々閑々たる能はず善を爲さざれば惡を爲し麥之に生ぜざれば稗茂るなりされど凡そ善なるものは皆神より出て而して總て幸福を神より得るの方法は祈禱なるを以て熱心誠實に心の底より祈禱する人は善を行ふの恩寵就中首として信仰の恩寵を受け祈禱せざる者は自然屬神的の賜を受けずる



の懶惰なると屬神的事物に冷淡なるとに由りて自ら之を失ふに至るなり且つ熱心に祈禱して主に事ふる者の心には善良の思慮意志希望及び善行の麥萌出る如く祈禱せざる者の心裡には諸惡の稗生ひ茂りて洗禮と傅膏と次に告解及び領聖の恩寵よりして其心中に残りたる微々たる善を壓伏す故に極めて精密に己の心の畑に注意し之に好惡懶惰驕傲奢侈不信貪婪吝嗇嫉妬怨恨等の稗の萌出ざらんことを努め毎日少くとも朝夕の祈禱に於て己の心の畑を耘し恰も清風を以てするが如く救世的の嘆息を以て之を爽かにし恰も朝夕の雨を以て灌溉する如く熱涙を以て之を潤すこと必要なり加之有らゆる手段を竭して己の心の畑に徳の種子なる神に對する信と望及び隣に對する愛を

植付け祈禱と忍耐と善行とを以て之を培養して其實を結ばしめ片時たりとも懶惰無爲に安んずべからず何となれば敵は懶惰無爲の時に乘じて熱心に己の稗を蒔かんとすればなり人々の寝ぬる時其敵來り麥の中に稗を播きて去れり馬太十三の廿五且夫れ克己勉強に依らざれば善事を行ふこと能はざるを記憶せざるべからず人の任意的に罪に陥りて後天國の力を以てするにあらざれば得られず只力を用ゐる者のみ之を奪ふ事となれり馬太十一の十二夫れ生命に導くの途は何故に狹隘して其門は何故に穿きや被選者の途を狹隘にしたるものは果して誰ぞ其門を穿くしたる者の誰ぞ俗界は被選者を壓迫し惡魔之を壓迫し肉体亦之を壓迫す吾人の天國に至るの途を穿くするもの



實に此等のものなり。

○主は我が靈魂と肉体とを無より化して有と爲したり彼の全能なることそれは是の如し。我安んぞ彼の全能を信せざるを得んや。我——自ら無よりして有に化せられたるの我は何ものか彼に取りて所不能のものありと爲すを得んや。此世に於て神に取りて何ものか我——人間より高尚なるもの尊貴なるものあらんや。我は是れ首として全能の大奇跡に非ずや。我神其者にて神と体合せられたる者我天使より卑微なる者我信と行の潔白にて彼と体合したる者は自ら神の全能の奇跡を行ふことありて例へばイリヤ及び使徒等の如く死者を復活するにあらずや。若し天使の靈及び人間の靈魂の如き神に由りて無より化して有

とせられたりとせんには有生物たると不生活物たるとを問はず彼に由りて造られざるものあらんや。加之神は依然神たることを失はずして自ら人間の靈魂と肉体とを受け吾人の爲す能はざる所の事を行へりとせんには彼に取りて亦何ぞ不可能の事あらんや。天下豈此奇跡より測るべからざるものあらんや。神が實際に己の全能を示すこと夫れ此の如し。

○若し無形体の天使にして神より其能を受けて幻象的ならざる眞誠の体を受けたりとせんには主が自ら己の体を造ること豈易々たるにあらずや。且夫れ凡そ生ある者は造化主たる神聖神の賜に由りて造化の能力を賦せられたりと言ふを得べし。此の如き法を萬有に賦與した



るの主神は豈自ら瞬間易々一令の下に其の好む所のものを化して物  
 体と爲すを得べからずとせんや。凡そ物体なるものは皆是れ混沌たる  
 不生活物より形づくらるゝに非ずや。果して然らば如何なる小信の者  
 たりとも例へば神聖なる聖体機密に於て麵包と葡萄酒の化してハリ  
 ストスの体血と爲るが如き豈亦之を疑ふべけんや。神自ら已に聖神及  
 び處女マリヤに由りて其身を造りたるに於ては是れ只奇跡を行ふ神  
 の通常の行爲のみ。

○堅固不易有力なること言に若くものあらんや。世界は言にて造られ  
 且維持せらる。彼は己の能力の言を以て萬物を保つ(希伯來一の三而  
 も吾人罪人は言を待ふこと甚だ輕忽粗漏なり。吾人の裡に重んせられ

ざること言に若くものあらんや。反覆恒なきこと言に若くものあらん  
 や。吾人が汚泥の如く時々刻々棄つること言に若くものあらんや。ア、  
 吾人は困苦の人なる哉。吾人が斯る責を弄ふよと何ぞ不注意なるや。吾  
 人は信と愛との心より發する言を以てせば例へば祈禱奉神禮説教機  
 密施行等の時に於て己の靈魂の爲め及び他人の靈魂の爲め施生の奇  
 跡を行ふを得べきを思はず。ハリステイアニンよ汝宜く一言一句を貴び  
 言毎に意を用ゐて堅く言を守り神の言と諸聖人の言は生命の言とし  
 て之を信用せよ。汝須く言は則ち生命の源たるを記せよ。  
 ○言の深く貴ぶべきは一には一言の裡に在らざる所なく満たざる所  
 なき惟一分つべからざるの主在すに依るなり。故に爾の主神の名を妄



に稱ふる母れ(出埃及記廿の七)と云はれたり即ち一名稱の中に自ら有る者なる主單純なる者永遠に叩拜せらるべき惟一の者居るなり。

○主若し強き憂悲若くは疾病若くは災難を以て汝を罰するよとあらば汝確信すべし彼必亦汝に安慰を遣はし汝の苦難に應じて後又汝に平和と能力と歡喜の恩寵を賜はんとするを蓋し『主は宏慈にして矜恤寛忍にして鴻恩あり怒りて終わり憤を永く懷かず我が不法に因りて我等に行はず我が罪に因りて我等に報いす』聖詠百二の八至十

○汝救主の十字架を仰ぎ視て我等の救贖の爲め之に釘つけられたるの愛(主ハリストス)を洞見し彼が如何なる幸福の爲め吾人を救ひ如何なる艱苦より吾人を贖ひたるかを思へ彼は如何なる猛獸の臆より吾

人を救ひ如何なる父に導きたるよア、愛なる哉ア、救贖なる哉ア、無窮の艱苦慘憺たる哉ア、得て形容すべからず窮まりなき幸福ある哉。

○吾人は『我等の父よ』と唱ふるに方りて在天の父が決して吾人を忘れず又忘るゝことなきを信じ且つ記憶すべし蓋し此世の善良の父たる者にして誰か己の子のことを忘れ之を慮らざるものあるか。主曰く『我は爾を忘れざらん』以賽亞四十九の十五『爾等の天の父は此等のもの』皆爾等に必要なるを知る『馬太六の三十二』須く此言を汝の心に銘せよ。汝宜く天の父が常に汝を愛し汝を眷顧し汝の父と稱せらるゝの偶然ならざるを記憶すべし父とは是れ無意味無能の名稱にあらずして意



義能力を充分に含有するの名稱なり。

○汝式の如く祈禱を爲す時就中祈禱書に由りて祈禱する時は言の眞意を解せず之を心に感銘せずして匆卒に輕々之を口に唱ふる勿れ乃ち常に汝が言ふ所の眞意を心に感銘するを努めよ汝の心は時として懶惰及び頑として其の誦する所のことを感ぜざるに由り又時として疑惑と不信及び内心の一種の熱火と壓迫に由り又時として放心及び此世の事物と煩慮とに其意を傾けたるに由り又時として隣より蒙りたるの侮辱を記憶し之に對して復讐怨恨の念を懷くに由り又時として塵世の快樂を想像し若くは稗史小説又は其他總体に世俗の書を讀むの快樂を想像するに由りて之に抗することあらんも汝は自愛心に

溺るゝことなく毅然汝の心に克ち之を神に悦ばるゝの犠牲として神に捧げよ「我子よ爾の心を我に予へよ」箴言廿三の廿六然らば汝の祈禱は汝をして神と親密ならしめ神と体合せしめ總ての天と相和せしめ汝は聖神と聖神の果實たる義と平和と喜悅と愛と温和と恒忍と心中の歡喜とに滿被せん汝は速に祈禱の式を終り以て疲勞したる身体を安息せしめんと欲するか汝は須く熱心に祈禱せよ然らば汝は安穩悠悠たる快夢に耽らん祈禱を急ぐ勿れ汝は半時間の祈禱にて三時間の安眠を贏け得ん汝は勤務又は勞働に急ぐか汝は早起せよ眠を貪る勿れ而して熱心に祈禱せよ然らば汝は安穩と銳氣と終日の事業に成效を得ん汝の心は塵世の空漠たる事業に走るか須く之を挫け汝の心は



此世の虚事を以て寶とせずして神を以て寶とせよ即ち汝は己の心を  
して首として祈禱に由りて神に固着せしめ決して世の虚事に向はし  
むべからず以て爾の病に罹れる時及び汝の死に瀕する時に於て世の  
虚事に富み信と望と愛に乏しき者として慚かしめらるゝを免るべ  
し若し予の言ふが如くにして祈禱せずんば汝の品行と信と靈智との  
進歩なからん。

○主イエスハリストスは在世の時首を枕するの處なかりし馬太八  
の二十も自ら己の生命と衆人の生命とを有てり(約翰三の卅六五の廿  
六十一の廿五十四の六富有の人々は金殿玉樓を造り之に住むといへ  
ども嗚呼彼等は其起居の斯く美々たるに拘はらず己の心に眞誠の生

命を有せず己の虚事を以てすら樂むこと能はず彼等は金殿玉樓に於  
て鬱々快々たり是を以て富人顯官にして其心の安慰をさへ得たらん  
には高樓を以て貧者の草蘆に代ふる者蓋し多のらん。

○眞に神に悦ばれんとせば神の爲め己の身体に對しても全く不偏無  
私たらざるべからず例へば祈禱の時に於ても倦怠を來たし眠らんと  
するの念切なるも自ら制して之に傾かざる時は吾人は身体に對して  
不偏無私たるものあり致命者及び勤行者輩は純乎たる不偏無私を守  
れり。

○家裡の朝夕の祈禱の終に於て列祖預言者使徒聖主教致命者表信者  
克肖者節制者若くは勤行者廉施者等の諸聖人を顧び彼等の行に諸徳



の實行せられたるを見て亦自ら諸徳に倣ふことを力めよ。列祖を記憶しては彼等の主に對する赤子の如き信仰と聽従とに倣ひ、預言者及び使徒を記憶しては神の光榮及び人間の靈魂の救贖に熱心あるに倣ひ、聖主教等を記憶しては神の言を傳へ、并に書を以て神の名を輝し、ヘリステイアニンの間に信と望と愛とを鞏うすることに熱心なるに倣ひ、致命者及び表信者を記憶しては不信者及び不敬虔の人々の前に對して信仰及び敬虔を守りて毅然たるに倣ひ、勤行者を記憶しては肉体を情慾及淫慾と共に十字架に釘うち、祈禱と敬神の念の篤さに倣ひ、廉施者を記憶しては廉潔と貧者に廣く施すことに倣ふべし。

○小兒の心より罪の穢——汚穢狡獪誹謗の念有罪的の習慣嗜好及び情

慾を剔除することを等閑に付する母れ、敵と肉体の慾は小兒をも寛容せず、小兒にも諸罪の種子あり、諄々小兒に説くに、人生の行路に於ける罪の危険を以てし、小兒に對して罪を隠さず、その之を知らず之を辨へざるに由りて有罪的の習慣及び惡癖に拘泥するを免れしむべし、此の惡習慣及び惡癖は漸々生長し、小兒の成人するに従ひて相當の果を結ぶなり。

○肉体的の人間には其生活其の業務皆肉体的の傾向、肉体的の目的を帯ふ、即ち祈禱も肉体的、學問教授も肉体的、文章も肉体的にして、生活上殆ど一歩一言毎に肉体的の生活散見せざるなし、就中肉体的の生活は人の腹中に烈しく現はる、肉体的人間の根據彼處にあり、人が神の恩寵



にて肉体的の生活を斥くるに従ひ己の腹を蹂躪し始め先づ己の食を改め履くことを知らざる腹の爲に生活するを止め信望愛は漸々其心中に發達す飲食衣服富貴に代ふるに神靈魂永生を以てし其意思及び想像の向ふ所只是永遠の苦にして金銀飲食衣服を嗜み邸宅及び其構造に華奢を盡すの代りに神に對し人々に對する愛天使及び諸聖人と天に同住するを好むの念を以てし神の言及び神聖の奉事を渴望し之を讀み之を聞くを以て飲食に代ふるに至る先に彼は其外部の幸福を妨害する者を以て己の敵と爲せしに今は冷然として究乏を忍ぶ先に彼は長眠を貪り睡眠中に於て快を求めしに今は眠ること少く故らに快夢を避く先に彼は事毎に力めて肉体を安らかにせしが今は之を履

待し以て強て靈に敵對せざらしめんとす。  
 ○若し人あり悪魔の壓迫に由りて銳意俗世の空漠たる事物に心を籠め太く之が爲に憂虞し恒に之を語り汝をして煩悶に堪へざらしむることあらば汝之が爲めに怒る勿れ乃ち此事たる敵に腦まさるゝ靈の病なりと確知し其病者に對し温乎悠々直に平然毅然たる信を以て神に向ひて祈禱し人の手にて造られざる聖像に對する讚詞を誦せよ曰く至仁なるハリストス神よ我等の罪の赦免を求めつゝ爾の至淨なる像に叩拜す蓋し爾は爾の造りし者を敵の動作より救はんとて好んで肉体にて十字架に上り給へばなり故に我等感謝して爾に頌ふ世を救ふが爲に來れる我等の救主よ万物は欣喜を以て滿されたりと。



○汝亦自ら省みよ、敵は汝の忍耐をも試む故に汝自ら激するに於ては、敵の勝利や二倍なり、汝宜く敵の奸計を悟りて之を嘲笑せよ。己と殊更親密なる人の敵に壓迫せらるゝ時は其人より此世の事物に對する愚痴の言を聞くこと最も心苦し。されど汝は喪心する母れ憂悶する母れ激する母れ、忍耐を失ふ母れ「自ら省みるべし、恐らくは爾も亦誘はれん」(加拉太六の二)救主を顧んで曰へ「救主よ我を救ひ給へ」と、心中の如何なる憂悲に於ても悪魔及び情慾の如何なる壓迫を受くるに於ても決して彼に背く勿れ、汝宜く救主自ら言ふ所を記憶せよ、曰く「憂の日我を呼べよ、我爾を脱れしめん之を以て爾我を讚榮せん」(聖詠四十九の十五)主の無限の能力は常に我等に臨みて我等を援けんとし、全能の主、仁慈の

主は我等に己の救贖力を垂れ、我等を有形無形の敵より救ふを喜ぶ心中の憂悲の原因の空々漠々たるものは最も憐むべく最も同情を表するに足る何となれば其原因の悪魔たること明々白々たればなり。  
○深き憂に沈み若くは重き病に罹れる時、就中人々より冤罪を蒙りたる時、敵の讒構若くは奸計に罹れる時は、赤心より「爾の旨成らんこと」と言ひ難きことあらじ、吾人自ら不幸の因となりたる時にすら赤心より「爾の旨成らんこと」と言ふこと甚難し、何となれば何事も神の旨に由らずして成るものあらざれども、斯く吾人を不幸の情態に陥れたるものは神の旨にあらざして吾人の旨なりと思惟すればなり、要するに吾心は信仰に由り、實驗に由りて神は吾人の幸福たることを知るが



故に神の旨は乃ち吾人の艱苦の因なりと心に信すること難し是れ不幸に於て爾の旨成らんことをと言ふことの難き所以なり吾人以爲く是れ豈神の旨ならんや神は何故に我を苦しむるか他の人々は何故に安穩幸福なるか吾人は果して何事を爲せしぞ吾人の苦難の終るときあるべきか……と然れども吾人の傷められたる天性が己の上に神の旨——之に由らざれば何物も存在すること能はざる——神の旨あるを認め謙遜にして之に服従するの難ければこそ益々之に服従し雷に安穩幸福の時に於てのみならず憂悲艱難に際しても赤心主に服従することを己の貴重なる犠牲として主に献くべけれ須く己の空虚錯誤的思想を以て神の完全なる睿智に服すべし何とあれば吾人の思想が神

の思想と相去ること猶天と地の相隔るが如くなればなり(以賽亞五十五の八、九)各人宜しく己の獨生の己の愛する己の約せられたる所之に約せられたる所のものは安樂及び幸福にして憂悲に非ずのイサクを犠牲として神に献げ以て之に己の信仰己の聽従を表しその既に享有し若くは將に享有せんとする神の賜に堪ふる者と爲るべし。  
 ○我等を誘に導く母れ』てふ主禱の言の眞意を解せんと欲せば先づ此祈禱が如何に祈禱すべきかを教へんことを請ひたる使徒に予へられたる且其の之を予へられたるは聖神の未だ諸使徒に降臨せざる時にして撒但が麥粉の如く簸はんことを主に求めたる(路加廿二の三十一)時なるを思はざるべからず當時諸使徒は猶薄志弱行誘惑に陥り易



かりしを以て例へばペートルの如く「救主は我等を誘に導く母れ」との  
言を其口に言ひ含めたるなり吾人又信望愛の誘はるゝことおくして  
生活する能はず心中の秘密の試惑は人自ら己の如何なるやを驗し以  
て反省悔改せんが爲に必要なり實に試惑なるものは衆くの心の思の  
露はれんが爲め(路加二の三十五)吾人の信仰の強弱智愚我が心の正邪  
其神を恃むか世俗に傾くか己を愛し朽つべきものを嗜むか將た専ら  
神を熱愛するかを露はさんが爲に必要なり。

○手は己の神性の唯一に人性を受けたる神子のことを思ひ翻つてハ  
リスティアニンを稱する輩の如何にして生活するやを思念する毎に恐  
怖憐愍我が心に充溢す恐怖の念起るは不注意忘恩不品行の輩に神の

大なる赫怒の及ばんことを思ふに由り憐愍の情の起るは自ら來世の  
得て言ひ盡すべからざる幸福を棄てし己を永遠の火永遠の痛苦に投  
ずるハリスティアニンの甚た多きを洞見するに由るなり。

○神が人の本性を己の神性と密接に体合し神人と爲りたるに由りて  
汝は總ての人就中「ハリスティアニンを深く敬ふべし汝人を見れば自ら  
思へ人たるの主は自ら萬事に於て罪の外此人に等しかりきと而して  
彼若し此の神の子藉身の眞理を知らずして行ふ所其當を得ずんば須  
く之を教へ之を諭せよ汝又總ての人を愛すること己の如くせよ何と  
あれば彼は亦他の汝なればなり故に主の誠に於ても友と稱せらる日  
汝の友に對して妄證を作す勿れ」出埃及記廿の十五



○肉体的の人は、ハリストス教の自由例へば奉神禮に赴くこと齋を守ること告解すること領聖すること及び凡そ機密を遵守すること等をして強迫と見做す而も是等のものは皆己の天性の要求にして其靈の爲に必要欠くべからざるものたるを知らざるなり。

○傲慢の人は他人が或人の徳を稱譽する時に當り其人の徳己に秀で己の名聲の之に壓せられんことを憂ひて恐る何となれば傲慢の人は自ら諸人に秀てたりと自負し己に等しき徳若くは其徳に勝りたるもの他人に之れあるべしと思はず他人の競争は是れ彼の爲に禍なり。

○衆人の爲に祈禱を誦する時に當り心にて衆人の爲に祈らざる時は甚た心苦し何となれば主は祈禱を顧み給はさればなり而も心にて

諸人の爲に祈るや忽ち快然たらん是れ主が慈憐を垂れて汝の祈禱を聽納れ給ふが故なり。

○悪魔は屢々瓜牙を以て吾人の心を咬む瓜牙とは何ぞ不信疑惑鬱屈及び諸慾是なり敵は時として我が僕婢の信義に關し吾人の財産上に關して吾人に深く疑を起さしむることあり而して之を爲すは就中吾人の心専ら神のことを思念し潛心天の事物の觀察に沈らざるべからざる時に於てす汝苟も之が煩慮憂悲を免れんとせば須らく聖書の言を思へ曰く『主の近し何事をも慮る母れ』腓立比四の五六汝徒に慮る母れ主の汝の財産を守らん汝家に居らざるも在らざる所なく盈たざる所なき彼は汝の爲め彼處に居り汝の僕婢若くは家人の良心に對して



盗す所あり時々刻々心中の思念を審判し冥々裡に「盗む勿れ」と言ひ彼等が盗まんとするの悪念を崩すことあれば恐怖畏懼を以て其心を攪亂し彼等の上に己の能力の奇跡を顯はし之をして窃盜するに至らざらしむ然れども汝は此世のものを以て皆之を塵芥と見做し之を蔑視することに習熟せざるべからず。

○吾人の造物主神の乃ち言にして彼の言は一として真理及び事實ならざるなし吾人の言吾人の神の像に背せて造られたるが故并に有智の諸造物の言も亦斯く真理及び事實ならざるべからず(天使長のザリヤ及び處女マリヤに對する福音の言の如く)天使及び諸聖人に於ては實に此の如し然れども夫の神に背きたる悪魔には只真理なく實質

なき思想と言の片影詐偽幻影の存するのみ而して真理の言の神言の像にして之れより出でし生命たるが如く悪魔の偽言は其像にして死なり詐偽は必ず死を免れす何とあれば自ら生命を離れて死に陥りたるものゝ靈魂に死を及ぼすこと自然の數なればなり。

○人の斷えず飲食喫烟する能はず人間の生命を化して不斷の飲食喫烟と爲す能はず(假令殆んど斷えず飲食喫烟する者あきにあらずといへども)是を以て奸惡の靈は生命を化して喫烟と爲し主を感謝讚揚すべし口を以て煙を吐くの爐と爲したり飲食を用うることに軽く且つ少なければ靈魂も細く且つ軽くなるなり。

○小信者よ我の全能を疑ふ毋れ我は總ての靈魂と總ての肉体を造れ



り我は諸靈と總ての肉体の神なり。蓋し靈り我より出で我は凡そ生氣ある者を造りたり(以賽亞五十七の十六)我地を造りて其上に人を創造せり我れ我が手を以て天をのべその万象をさだめたり(同上四十五の十二)

○殺す母れ』醫師といへども病者の病症を知らず之に有害の藥劑を服せしめて殺すことあり自ら治療することを欲せず又は醫師の治療を要する病者に治療を加ふることを欲せざる者も亦是れ人を殺すなり。激怒の病に害ある患者例へば肺病患者の如き者を激せしめ以て其死期を早むる者も人を殺すなり。吝嗇に由り又は其他惡き原因に由りて速に病者に治療を加へず飢者に麵包を予へざる者も人を殺すなり。

○人々の心に不具のもの何ぞ夫れ多きや彼等は機密執行の時に際して不信無感覺徳義上の荏弱を表し或は嘲笑し或は徒らに恐怖驚愕す。隣の病に罹るを見ても平然として惻憐の情を起さず甚しきは兄弟を以て世の贅物の如くに見做し心竊に彼にして死なば我が肩幅廣くあらんなど考ひ各人自ら明日或は死するやをも知らず己の肢たる病者を憐むの心なく惡魔の笑を以て喜ぶが如きことあり。

○怒り易く思慮淺薄なる人は或物を何事にか應用せんとし己の智の機轉を以て之を實用に供する能はず其物の己の欲する如くならざるを見て怫然怒りて其物を抛つこと往々之あるのみならず時として恰も其物の有心有智にして故意に己の希望に反抗するが如き思を爲し



て之を毀つことあり甲は落ち乙は繋がり丙は折れ丁は意の如くに動かす成は思ふ所に付着せざる等恰も物皆己に敵對するが如く煩悶自ら殆ど泣かんと欲することありされど其事に巧みある工匠をして之を爲さしめよ皆順當に整はん是れ何故ぞ他なし智を以て考慮を以て機轉を以て精神を以て其事に従ふが故なり此の吾人が通常物体の處置に對して見る所のもの吾人をして何を思はしむべきか何等の思想を起さしむべきか予は到る處人間の智若くは有智ある精神の物体を支配しありて其智に由らざれば何事にても——例へば正當の運轉たりとも——自然に成る能はざるを見る之と同じく如何なる物たりとも自然にしては之を或目的に應用する能はず又は自から或目的を遂ぐる能はず何となれば目的は或一定の法にて爲し遂げらるゝものにして法は智より出ればなり更に轉じて世界を觀んか無心の物体無智の動物に整然たる秩序の存するは何に依るか此の美と夫の醜陋無生活なる物体の化して秀美有生のものと爲るの妙は何に依る乎夫の自ら目的を有せず又之を遂ぐること能はざる物体が諸種の幾千萬の目的に應用せられ通常の方法にて極めて奥妙に目的を遂ぐるものは果して何に依るか此物体の無形の命令者は誰ぞ物体と諸種の有生造物に於て奇々妙々の聰明を顯はすの智は誰ぞ吾人の目前に於て冥々裡に己の妙技を行ふの永遠の工匠彫刻師は是れ誰ぞ主よ獨り有る者萬物の造化主よ予は我が心の目を以て空間の一線毎に爾を觀察す爾は

る能はず何となれば目的は或一定の法にて爲し遂げらるゝものにして法は智より出ればなり更に轉じて世界を觀んか無心の物体無智の動物に整然たる秩序の存するは何に依るか此の美と夫の醜陋無生活なる物体の化して秀美有生のものと爲るの妙は何に依る乎夫の自ら目的を有せず又之を遂ぐること能はざる物体が諸種の幾千萬の目的に應用せられ通常の方法にて極めて奥妙に目的を遂ぐるものは果して何に依るか此物体の無形の命令者は誰ぞ物体と諸種の有生造物に於て奇々妙々の聰明を顯はすの智は誰ぞ吾人の目前に於て冥々裡に己の妙技を行ふの永遠の工匠彫刻師は是れ誰ぞ主よ獨り有る者萬物の造化主よ予は我が心の目を以て空間の一線毎に爾を觀察す爾は



今に至るまで見えずして己の子及び己の聖神と共に萬事を成すあり。予は我が心を以て總ての場所に於て爾に接吻し爾に叩拜し爾を讃揚謳歌す。

○飢者に麵包若くは金銀を施與するに之を惜むの心を以てし狡獪の目、貪婪の心を以てする者は是れ其麵包若くは己の施濟に毒——縱令其毒は無形にして見えざるにせよ——毒を入るゝに等し。人に施すには須く愛を以てし人を尊敬するの心を以てし快然喜悅の情を以てすべし。何とあれば愛なるものはその愛する者を救助せるに當りて喜ぶこと當然なればなり。

○願くば神は汝をして汝が物体の財産を犠牲として主若くは彼の至

淨の母若くは其他諸聖人に献することを惜み物体を精神より重んずるの心を起さしめんことを汝宜く慎み汝の財産をして汝の滅亡の因たらしむる母れ汝須く主若くは彼の聖人は汝に予ふるに朽つべき幸福の代りに不朽の幸福を以てし一時の幸福の代りに永遠の幸福を以てすと確信し且屬神的の幸福たる靈妙の光罪の赦免活信堅き望純潔の愛、平和及び聖神に依る喜悅の賜等は物質の賜よりも無限に高尚のものに見做すべし。汝は喜んで己の所得を主及び彼の聖人に献ぐるの犠牲として費せよ。若し人の手を経て之を贈るときは其のもの必ず之を受くべき人の手に入ると信せよ。若し主に献ぐるの犠牲を匿す者あらば汝の主神は其人より之を追徴し汝の一厘一毛たりとも空し



く散ずることさく乃ち恩賜の神にして就中己の赤心の賜を犠牲として献ぐる者に取りて恩賜の神たるの主は汝に酬うるに汝の信と汝の心情に相當するの賜を以てせん。

○神の聖人は己の内心の動作に於て其内心の監督及び實行者たる主に耳を傾け其前に度み内心歡喜の餘り嬉々として天上の安樂を享有するものたりと爲す『今は汝等の靈の牧者及び監督に歸れり』彼得前書

二の廿五

○主の物を造るや之をして造物主の意に由り千變万化せしめんが爲なり物体の任務とする所は神が之を以て造物の爲め及び造物に於て種々に己の睿知全能仁慈を顯はし之に由りて有生の造物就中有智に

して肉体を衣たるの造物に恩恵を施さんとするに在り。

○自ら喜んで施さるる人の施濟は微々たるものあり何とされば施濟物の其人のものにあらず神の賜にして心情のみ其人に屬すればなり、故に物を施すに善意を以てせず之を惜むの心を以てし隣の人と爲りてを敬せざるの心を以てするより多くの施濟は概ね無に歸するなり。接客者も亦之と同じく偽善的虚榮的に客を待遇するに由り無に歸するもの多し吾人は宜しく赤誠の心情を以て隣に對する愛の聖壇に己の供物を献げん蓋し神の樂みて與ふる者を愛すればあり哥林多後書九の七

○敵は人の心に致死の害を加ふるに時としてイオフに對する如く外



部の萬象風、水、火等を以てすることあり、敵の奸計に由り時として家の焼かるゝことあり、水の舟及び家屋を溺らすことあり、大風の家を倒すことあり、又敵は濕氣蒸々たる日に濕氣及び煤氣に乗して吾人の内心に奸計を運らし之を煩累壓迫して凡そ誠實神聖なることに對して無情冷淡ならしむることあり、嗚呼空中の權を握る君の奸計何ぞ其れ種種雜多にして之を識別するの何ぞ難きや。

○本性の傷められたる人間は常に食ひ常に飲み常に己の視官己の聽官己の嗅官己の觸官を慰めんとして欲し肉体的の人々は珍饈美味を以て觀物を以て音樂を以て喫烟を以て金殿玉樓を以て外觀の美飾を以て自ら快を取らんとす。只夫れ神聖なる物体の修飾は神に心を向はしむ

るが故に管に有罪たらざるのみならず神聖にして教化に益あり之と同しく聖なる歌香爐の馨聖堂及び其器物の修飾の壯麗美觀等は皆是れ神の光榮を輝し敬虔の情を發揮すべきものなるを以て有罪にあらずして神聖あり。而も彼の世俗にあるものは皆本性の壞傷せられたる肉体的の人間に役して神より遠ざくるのみ壞傷せられたる人の心は肉體の不淨の感觸を尋ね之を以て快とし壞傷せられたるの智は己の壞傷に相當するの知識を求め亦之を以て快とし壞傷せられたるの想像と記憶と己に適するの形象を尋ね以て自ら快とす。是れ皆舊人にして舊人の爲すべき事なり。然れども吾人ハリストイアニンは新なる受造物(哥林多後書五の十七)若くハ更新の民(彼得前書二の九)眞實の義と聖



とを以て神に循ひて造られし新なる人あり(以弗所四の廿五)吾人は須く舊人と其前記の行とを棄て其希望及び情慾に反抗せざるべからず。

○汝公衆の前に於て長時間の祈禱文を誦する時敵は汝の心を錯亂し公衆が長文の祈禱を解せず斯る祈禱を誦するは時間を空費するに過ぎずとの思想を起さしめて汝の口の言を消さんとする。是れ固より妄誕なり抑諸の眞理の教導者たる聖神如何彼豈爲するもなく人間の心に感化の効を及ぼさゆるか。汝豈自ら聖神に由りて心を照されたることなきか。汝先に若干の文句を解せざりしも後俄に聖神汝の智を啓發して其の了解せざる文句を了解せしめ妙光の突如として汝の心を照すことあらん。汝は他人にも亦之ありと信せよ。有害疑惑的の想像を懐か

す汝須く心中毅然として祈禱を誦せよ。汝只種を蒔け神之成長せん。

○狭き路の窮屈さは種々なり。汝祈禱せんと欲するか敵は心靈上より肉体上より汝を壓迫す。義勢上説教を書かんと欲するか敵は懶惰を以て汝を壓迫す。到る處窮屈なり。地獄の黒烟は汝の前より神聖敬畏すべき献祭の行へるゝ時汝の領聖する時諸の機密の行へるゝ時に於てすら爾の靈魂を暗まし且壓迫せんとす。神聖なる奉事の緊要なるに従ひて敵の攻撃も亦益激烈を極む。

○神は仁慈にして恰も無盡藏なる膏の如し靈界は此仁慈の發達にして恰も芳香の大海の如し物質界も亦然り争でか斯る仁慈より有らゆる仁慈を受くるを望まざるを得んや。主は膏の如く仁慈を以て諸造物



に漲り而して自ら毫も盡さざるなり。

○大祭に近くに當りては就中猛省せざるべからず。敵は豫め人の心を以て其の祭る所の事件に冷淡ならしめ「ハリステイアニン」をして其趣意を熟考して誠心之を尊ばざらしめんとす。敵は吾人を動かすに或は空気を以てし或は腹内に入る所の飲食物を以てし或は其の激しく人の心に放ちて人の全体を射る所の火箭を以てし奸惡汚穢誹謗的思想と其祭る所の事物に對し心中嫌惡するの情を起さしむ宜く克己神の事を思念し祈禱に己を強ゆるを以て敵に勝たざるべからず。

○祈禱の時に於て敵は汝をして太く食慾を起さしむる時は須く此の物質的神經的の激動と蔑視し益強く己の心を祈禱に堅め信と愛とを

以て之を熱し誘惑者に向つて救主の言を云ふべし曰く「人の唯麵包のみを以て生くべきに非す乃ち凡そ神の口より出づる言を以てす」と馬太四の四祈禱は是れ我が靈魂と肉体とを堅め且照す所の良食なり。

○敵は時として惡人に由りて吾人を動かすことあり即ち傲慢の人に由りては侮辱及び輕蔑を以て動かさんとし暴横の輩に由りては不信妄誕及び教理に對するの嘲笑を以てし暴虐の有司に由りては壓制及び慘苦を以てし口腹の慾に沈る者に由りては美味を嗜み飲食に沈るを以てし但し吾人の肉体も亦之に傾くの僻あり淫蕩者に由りては淫に荒み若くは貞節を破るを以てし盜賊に由りては吾人の財産の掠奪を以てし怨恨者及び嫉妬者に由りては吾人をして憂悲せしめ殘忍酷



薄の徒に由りての吾人をして衣服住を失はしめ且彼自ら斯世の君約翰十六の十一(空中の權を握るの君とし斯世の暗昧を宰どる者)以弗六の十二として神の許容に由り此世の有らゆるものを以て人類を激し之をして己に與みせしめんとして種々の誘惑及び壓迫を用ゆ若し睿智至仁全能なる在天の父にして夙夜吾人を警醒し誘惑者の無限の奸計譎策を化して善良の結果とし吾人亦深く自ら省みる所なくんば無形体の惡漢は夙に全世界を征服して此世には其根たる聖裔恐らくは遺らざりしならん以賽亞六の十三

○人間は祈禱するに當りて須く己の慢心を挫き之より塵世の虛無を一掃して之に入るゝに一點の疑團を挾まざる活信を以てせざるべからず。

○肉体的の人快なれば屬神的人不快にして外部の人榮ゆれば内部の人腐敗す視よ吾人の裡は有罪肉体的の舊人とハリストスの恩寵にて更新したる新人の相反すること此の如し故に使徒曰く「我等の外なる人は壞るとも内なる人は日々新なり」と(哥林多後書四の十六)是れ吾人の自ら屢々實驗する所なり故に眞誠の「ハリステイア」ニたる者は自ら望んで外部肉体世俗的の苦難を受けざるべからず此苦難は其精神を堅固にするなり怨恨がましきみとは思想にだも浮ぶべからず其不死の靈に益を與ふるものは假令肉体の人に取て甚だ相反する方法を以てすとも焉んぞ恨むべけんや疾病失火掠奪貧困不幸戰爭飢



饑等は往々靈魂に益を爲すもとなり。

○神は生命にして疾病は生命より遠ざかるものなるが故本元の生命たる神にして一たび吾人に觸るゝときは吾人を醫すは當然なり故に萬物の生命たる救主も一たび觸るゝを以て曾て人々を醫し今又人を癒す傳染物の醫治に就ても亦爾か言はざるべからず造物主及び全能者一たび塵き一言を發すれば瞬間に其傳染力を失ふ(空氣、水、植物、動物等)

○愛悲憐屈と共に亦他の誘惑あり凡そ誠實善良神聖なるものに對して心木石の如くなり無感覺となること是なり全心恰も石の如く木片の如く信仰亦く祈禱するの力なく神の慈憐を待むの望なく愛なく冷

冷淡々たることあらん信まべく感すべく望むべく愛すべく造られ乍ら石と爲り木と爲り信もなく愛もなくんばその苦惱果して如何ぞや然れども之を忍び忍耐以て主に祈り無感覺の石を我が心の幕の口より轉ばし吾人の内より石の如き心を取り去りて肉體的の心を賜はんことを求めざるべからず抑々人の木石化するは何故ぞ是れ吾人の心裡に惡魔の蟠居するを示すものにして彼惡魔は吾人の弱信に乘じ強迫以て我が心を占領し凡そ善良の思想は悉く之を排除し之をして心に居らしめず悉く信仰と善良の感情とを切斷し人をして自ら苦ましむ是れ實際人に遭遇する所なり人皆宜く其の然る所以の理を知るべし。



○吾人が國王及び國家に對して竭す所の此世の種々の勤務は吾人が永遠に在天の王に竭すべき要務の預象なり吾人は彼在天の王に對しては首として創造と救贖と照管とに由る彼の誠實の子として忠實に勤めざるべからず此世の役員は此事に思到るべきか須く之を思はざるべからず此世の務めは在天の務めの豫備的試験の務めなり爾は寡きものに於て忠なり我爾に多くの者を督らしめん』馬太廿五の廿一

○神に務めつゝ自家撞着即ち己の敬虔に背戻したる品行を爲す者に對して慘酷なる審判者と爲る勿れ彼等をして自家撞着せしむるものは彼等の惡敵たる魔鬼なり彼魔鬼は齒にて強く彼等の心を噛み之をして其意に反するふとを行ひしむ。

○管に欲する時事を行ふのみならず就中欲せざるどきに行ふべし而して其の所謂事とは通例の俗事と就中己の靈魂の救贖のこと祈禱神の言又は有益の書を読むこと神の奉事に赴くこと善行及び神の言を傳ふること等を指して云ふものと知るべし汝は怠惰奸惡多罪なる肉體に聽從する勿れ彼の肉體は永く安逸を貪らんとし一時の安慰快樂を以て吾人を永遠の滅亡に導かんとす曰く汝の面に汗して食物を食へと(創世三の十九)又教會の歌に曰く憐れなる靈魂よ汝に賜はりたるの才能を勉めて發揮せよと又我等の救世主謂て曰く天國は力を以て得らる而して力を用ゐる者之を奪ふと(馬太十一の十二)

○汝の心或る情慾に由りて惑亂し汝は安慰を失ひ心中激昂して人に



對し汝の舌より不平怨恨の言進る時は片時たりとも此の汝の爲に有害なる情況に安んずる勿れ乃ち直に膝を屈めて聖神の前み己の罪を告白し中心より聖神よ我の我愆の靈憎惡と爾に聽從せざるの靈にて爾を辱かしめたりと云ひ而して後聖神の在らざる所なきを信するの心を以て中心より聖神に祈りて云ふべし「天の王慰むる者眞實の神在らざる所なき者盈たざる所なき者萬善の寶藏なる者生の賜ふの主よ來りて我の衷に居り我を諸の汚穢より潔くせよ至善者よ我が愆に溺れたるの靈魂を救ひ給へ」と然らば汝の心は謙遜平和感嘆に満てん汝の凡その罪凡その情慾此世の事物に戀々たること肉体上の事に依り人に對する不平怨恨等は皆是れ至聖の神平和と愛の神吾人を地より

天に有形より無形に朽つるものより朽ちざるものに一時のものより永遠に罪より神聖に惡より徳に導くの神を侮辱するものたるを記臆すべし、至聖の神よ我等の主宰我等の教育者我等の慰撫者よ父の聖なる者よ願くは爾の權能にて我等を守り給へ我等の天の神よ我等に父の神を扶殖し我等をして我主ハリストスイイスに由る彼の眞の子たらしめよ。

○汝祈禱する時は常に汝の外の人のみならず内の人の祈禱する如く注意すべし汝假令測るべからざるはと罪を犯すとも祈れよ汝は惡魔の刺激狡猾失望には意を注がず其の奸計を制して之に勝て宜く救主の慈憐矜恤あるを記臆すべし惡魔は主を以て汝の前に恐るべき者無



慈悲の者汝の祈禱と汝の痛悔とを斥くる者と爲さん。されど汝は吾人に取りて希望満々たる救主の言を服膺すべし。曰く我に來る者は我之を外に逐はざらん。約翰六の卅七。凡そ勞苦する者及び罪と不法と惡魔の奸計にて惱さるる者は我に來れ。我汝等を安んせしめん。馬太十一の廿八。

○人よ汝若し在天の父の忠實の子と爲らんと努め神に對し隣に對する愛の誠を遵守したらんには有形無形の世界に注がれたる造物主の審知と仁慈と全能の無限の程度を以て汝にも注がれんとす。汝全力を竭し倦まず撓まず善功を立てよ。

○凡そ或情慾を満たさんとして惡を行ふの人はその行ふ所の惡その

自ら役する所の慾にて己に充分罰せらる就中神より離れ神亦彼より離るゝの一事にて罰せらる故に此の如き人に對して惡意を懷くは無智の至無情の極にして溺るゝ人を陷隣し煙に卷かるゝ人を火中に陥るゝに等し。此の如き人は滅亡に瀕する者として之に倍加の愛情を表し熱心之が爲め神に祈りて之を非議せず其災難を見て喜ぶが如き事を爲すべからず。

○罪は己の味方に何等の證據をも有せざる代りに内部の壓迫毀傷刺激と罪の熱したる毒の溢流を以て其力を逞うす。凡そ此世のものを蔑如し神の愛在天の愛にて傷つけらるる者は福あり。されどアダムの罪に陥りたる子孫中此の如き人眞に寥々たり人として情慾利慾名譽の



刺に刺されざる者何處に在るか之に反して神及隣に對する眞誠の愛の刺に觸れたる者果して之れ有るか情慾淫慾の刺の神の愛の刺を逐ひ之をして其所を得せしめず或者には此二要素は日々相争ひ互に排斥し或者には此争亦く又或者に此世の刺は天の刺を挫きて獨り其力を逞うす例へば貪利の人嗜慾の徒功名を貪るの人沈湎の徒欺騙者兇殺人荒淫者姦通者等是あり。ア、吾人の心果して何れの時施生的三位一体の神己の誠を守ること命じたるの父と子と聖神とに全幅の愛を献ぐるに至るべきか。

○吾人は豫期したる所のものを受けず又は或る財寶を失ふて忡々煩悶するの何故ぞ他亦し其豫期したる所若くは失ひたる所の財寶を以

て我が心中の偶像とするど我が心は獨り我が心を満足し安慰し得べき活水の源たる主を離れたるに由るなり吾人は須く全意を主に傾注せん然らば金銀勳章の如き凡そ外形的朽壞すべき此世の幸福の之を失ふも將た豫期して得ざるも決して憂ふることなかるべし吾人は宜く内に顧みて生活することに慣れん吾人は天上の幸福在天の報酬に意を注がん此幸福こそ實に羨望すべく且確固にして之を得たる者を眞に幸福の者と云ふべけれ。

○吾人は常に快晴温暖の天氣を樂み之を口にするを好む然れども天使及び諸聖人の天の第宅に於ける光明清爽涼快の之に比すべくもあらず而も吾人が彼處の第宅彼處の生活彼處の光明彼處の幸福のこと



を云ふを好まざるは何故ぞ太陽は喜ばしく生氣満々光輝赫々たり然れども天使及び義人の靈魂の見て樂む所の神の面の光は限りなく喜ばしく生氣更に満々光輝更に赫灼たり主よ爾の諸聖人と共に爾の永遠の光榮に王たらしめよ主よ爾の民を救ひ爾の嗣業に福を降し之を矯正して永遠に彼等を擧げ給へ神よ爾を讃揚すの歌

○熱涙の祈禱は雷に罪を淨むるのみならず身体の劣弱疾病をも醫して人の全体を新にし一言以て之を云へば即ち更生するなり予の實驗上より之を云ふ。ア、祈禱は是れ何等貴重の賜ぞや鴻仁の父諸の安慰の神よ爾に光榮を歸す。獨生の神の子我等の爲め無限に我等の罪の赦を代求する者爾に光榮を歸す。自ら言ふべからざる嘆息を以て我等

の爲に求むる羅馬八の廿六至聖の神我等をして嘆息と熱涙とを以て燃るが如きの祈禱を爲すを得せしむる者冷なるの靈魂を暖むる者罪の爲に痛嘆憂悲するを得せしむる者我等を清め我等を聖にし我等を慰撫堅定更新する者よ爾に光榮を歸す。自ら始なく生命の本源にして有智の諸造物よりして永遠に祝福せらるる、聖三者よ爾に光榮を歸す。

○神が汝に予ひし所のものより更に多くのものを以て汝に與ふる能はず何となれば彼の己即ち神性と合したる己の体血を以て爾に予へたればなり汝は怒及び詛の子(以弗所二の三)なりしに彼は汝を以て己の子としたり(羅馬三の十六)彼の外部の幸福の中亦必要欠くべからざる



るものを以て悉く汝に予へ且つ之れをして剩餘あらしめ而して更に多く外部の幸福を以て汝に予へざる所以のもの之を予ふるに於ては恐らく汝の靈身に取りて害あるが故なり汝は今已に此の外部の幸福に戀々とし之に偏するより災難損害を蒙り神と隣に對するの愛を棄て天に向ふの傾向より遠ざかり下界に墮落して至大の害を受くるとせんには汝之れより更に多くの幸福を享有したらんに果して如何ぞや汝は恐らく情慾界に溺死せん。

○若し屬神的及び物質的の必要なる幸福を得んと欲するの望切實にして祈るゝと熱心ならんには信仰の祈禱を以て至仁至慈の神より悉く之を受くるを得べし且つ夫れ教會が吾人に祈禱すべく諭す所の言

は何ぞ是れ皆主をして吾人に於恤を垂れ凡ての善き賜を與へしむるに便あるものたり敵は神の仁慈と祈禱の効力とを知り百万吾人をして祈禱を忌避せしめんとし或は祈禱の時吾人の智を散じ世俗の種々の情慾又は急忙惑亂等を以て吾人を蹂躪せんとす。

○塵世の事物就中過分の事物の爲に焦慮する時は其心生命及び平和の源なる主を棄つ故に勢ひ生命安慰光明勢力を失ふに至るなり而も一たび其思慮の空漠たるを悔ひ朽つへき事物より其思を轉じて更に朽ちざる神に其全心を注ぐ時は復た其心に活水の泉は滾々として流れ始め靜寧安慰光明勢力と神及び人々に對して毅然畏るゝ所なきの念再び起るべし須く賢く生活せざるべからず。



○汝は汝の憎悪蔑視する人の爲に祈ることを欲せずされども汝は之を欲せざるが故にこそ祈禱し汝自ら精神的の病者にして憎悪と驕傲の病に罹るが故にこそ天の醫師に就くべけれ汝の敵若くは汝の蔑視する所の人も亦固より病者なり汝は宜しく悪意なきの主に悪意を抉まざる事と忍耐とに汝を薰陶し汝をして汝の友にあらで汝の敵たる者を愛するに至らしめ汝をして恰も友の爲にするが如く敵の爲に誠心祈禱するを得せしめんことを祈るべし。

○人あり祈禱の時氣力衰へ靈身共に衰弱し微睡まんとする時奮勵一番我が靈魂よ汝の誰と談話するかと自問し而して後己の前に明々地に主を想見しつゝ、恭々肅々熱涙を流して祈禱し始めたるにその鈍く

なりたる意氣は鋭くなり智と心へ光りて殆ど蘇生したるが如くなり明々地に主神を想見し其前に歩むとは是れ之を聞ふなり彼更に心に戒めて曰く我が靈魂よ汝若し汝より位高き人々と對談するに優柔疎忽以て之を侮辱するが如きことを爲さずとせんには汝何ぞ主と對談するに敢て優柔疎忽あるや。

○主よ汝が予并に我れ不當の者が痛悔機密の後汝の神聖施生的の天の機密を授けたる人々に爾の聖機密に由りて現し給へる爾の能力と醫治の奇跡の爲め予は如何に爾を頌揚し如何に爾を讚美すべきか視よ彼等は我が前に爾の能力と爾の仁慈を明認し爾は彼等に爾の奇跡を行ふの手を垂れ之を病の床死の床より起せりと揚言す人皆生くべ



しどの望を絶らたる時施生者よ彼等が爾の体血を領するに及び忽ち生氣を回復して病直に愈え其時其日己の身に爾の施生の右手の觸るを感じたり而も主よ予爾の偉業の實見者は日々雜務に追はれて今に至るまで爾を公々然と讃揚し以て爾の民の信仰を堅定することを爲さず又何時如何にして爾を讃揚すべきかを知らず主よ爾曾て爲せし如く自ら己の名を揚げ自ら爾の名と爾の機密を榮せよ。

○汝は感情的の快樂の代りに高尚なる屬神的神聖的の快樂を得べき望を以て自ら感情的の快樂を辭せよ汝は神の公義の法に依り自ら量る所の量にて量られ馬太七の二汝が隣に施したる所の善は早晚必ず汝の懐に戻ることを猶汝が隣に加へたる所の悪が或ハ忽ち或は速に汝

の懐に戻るが如くあるを信じて宜く隣に善を施せ汝須く吾人の一體たることを記憶せよ我等多くの者も一の体を成す哥林多前十の十七汝須く神の極めて公義なるを記憶せよ。

○若し人よりして吾人に害を加へらるるゝみとなく世に吾人を侮辱する者微つせば安くに惡と闘ひ功を立て徳を赫すの餘地あらんや之れ微つせば安くに侮辱を忍び溫柔謙遜を表するの餘地あらんや吾人が己の徳を赫し以て榮冠を得んが爲めには諸般の害をも忍ばざるべからざる所以汝之に由りて知るべし。

○罪を犯す者侮辱する者に對して激する勿れ吾人の通弊として他人の罪惡を指摘し之を非議するの念を懷く勿れ各人皆己の爲に神に答



辨し各良心を有し各神の言を聞き各書籍又は他人との談話よりして  
神の旨を知る就中汝に關繫なき先輩の罪を故意に指摘する勿れ人皆  
各己の主の前に立ち或は倒るればなり(羅馬十四の四)汝ハ寧ろ己の罪  
己の心を矯正せよ。

○主は何故に人をして乞丐たらしむるか是れ汝をして己の罪を清め  
之を塗抹せしめんが爲にして畢竟汝の幸福の爲なり蓋し施濟は乃ち  
諸罪を清むればなり(トウイト記十二の九)又一は汝をして彼等を以て己  
の爲の祈禱者と爲し主をして汝に矜恤を垂れしめんが爲なり蓋し矜  
恤ある者は矜恤を得んとすればなり(馬太五の七)

○主は何故に人をして乞丐たらしむるか是れ一は汝をして汝の望に

依るも俄に義人たるを得ざらしむると其理相同し神は衆人をして足  
らざる所からしめ更に富有の者たらしむるをも得べしと雖も斯く  
したらんには恐くは人々益神を忘れ驕傲嫉妬等益慕るに至らん主若  
し汝をして忽ち義人たらしめたらんに汝の自負果して如何にぞや  
夫の罪は汝に示すに汝の荏弱陋劣なると汝が神及び其の恩寵を絶え  
ず要する所以を以てし汝をして謙遜たらしむる如く究乏と他人の救  
助を要することは乞丐をして謙遜ならしむ乞丐をして富ましめんか  
多くの者は神を忘れ己の恩人を忘れて浮世の奢侈の中に其靈魂を亡  
ぼすに至らん富の有害なること彼の如く其心の目を眩惑すること此  
の如し富は實に人の心を粗暴にし忘恩のものと爲すなり。



○街上遊歩の際月の登るを見るの感』主曰く我は万物を以て汝等を  
 歡ばす我は我が像に肖せて汝等を造り日月星宿をして汝等の爲に光  
 を放たしめ汝等の爲め地と其の諸果物とを造り汝等をして呼吸せし  
 めんが爲め空氣を漲らし我は汝等をして暗を照らし暖を取り汝等の  
 食物を煮るを得せしめんが爲め汝等に火を與へ又汝等に諸種の美味  
 と種々の飲料を與へ且我は汝等を啓發し各種の織物を製して服と爲  
 すを得せしめ之が原料を給したり我の地層の中に於て汝等に金銀銅  
 を始め其他の金屬を與へ以て貨幣を鑄造し其他の製作に充るを得せ  
 しめたり我の汝等を集めて秩序整然たる社會を作らしめ汝等に與ふ  
 るに我が心に適ふの王我が傳膏者此世に於ける我が像を以てしたり

遂に我は我が獨生子を予へて死に付し且彼の意に依り彼を汝等に予  
 へて汝等の飲食と爲し彼を首として此世に教會を建てたり而も汝等  
 は我が爲に盡せし所のもの及び盡す所のものは果して何ぞ汝等は我  
 が此等の仁惠の爲め何を以て我に報いんとするか我を忘るゝを以て  
 し我に對する忘恩を以てし我が法律を蔑視するを以てせんとす噫信  
 なき悖れる世や我何時までか爾等と偕に在らん何時までか爾等を忍  
 ばん馬太十七の十七

○主よ爾は番に天と地のみならず全人類各人の生命衆人の心を爾の  
 手に保持し番に各人の生命のみならず各動物各禽鳥魚類昆虫より目  
 に觸れざる微蟲に至るまで之を爾の手に維持するを以て爾の名は實



に全能者なり。主よ爾の無限の全能に光榮を歸す。天地の主宰よ爾の至  
 仁睿智全能の照管に光榮を歸す。全能の主宰よ爾は地獄をも撒但及び  
 其無數の群と共に爾の手に保ち只爾の許容に由りて吾人を悔悟懲戒  
 せんが爲め撒但と其使は吾人に對して奸計を運そのみ吾人は爾吾人  
 の救主に祈り爾の前に眞實己の罪を悔いん然らば爾は吾人をして給  
 然大悟せしめ吾人の敵に向ひ汝等は我が僕を惱ますこと已に久し彼  
 等は再び我に屬すと宣言し以て之を我等より斥ぞけん。主よ斯く爾が  
 吾人に對して絶えず恩惠仁慈を垂るるも吾人猶悔悟せざるに於ては  
 爾の施すべき所のもの何ぞや吾人—情慾に溺るる者肉体虚無的の舒  
 暢凉爽を好む者懶惰放心奸惡の徒を悔悟せしむるに懲罰艱苦究迫と

火と吾人の忿恨を以てするの外なきのみ。  
 ◎世界は假寐有罪の眠の情態に在りて睡眠す神は之を醒すに戦争を  
 以てし疫病を以てし失火を以てし破壊的の暴風を以てし地震を以て  
 し洪水を以てし饑饉を以てす。  
 ○全能者よ天使の歌を以て爾を謳歌す聖なる哉聖なる哉聖なる哉神  
 よ生神女に由りて我等を憐み給へ(早課讚詞)汝は司祭に對して云ふ天  
 使と共に讚揚し汝は主イエススハリストスの恩寵に由りて彼等と備  
 に一の會一の教會神の一の家族を成す汝は常に警醒して己并に汝の  
 慮に委ねられたる屬神的孩子の靈魂を守り天使的生活を爲さる  
 べからず汝は常に主を讚揚感謝せざるべからず汝は神聖と爲らんこ



とを努めざるべからず汝は節制齋戒し謙遜服従忍耐を守らざるべからず此事皆主の恩寵に由りて成らん。

○主よ爾が絶えず我に賜ふ所の爾の鴻恩の爲め我何物を以て汝に獻げんか只我が惟一の信のみ蓋し我は我を義とするの行を有せず一も爾の前に善を行ひざればなり然れども我が信も亦是れ爾の賜なりされど爾に屬するものより爾のものを以て爾に獻ぐる所のものを受けよ蓋し萬物一として爾のものに非ざるなく我等亦皆爾のものたり爾の我等の完全なる原像にして『我等は縱令罪の痕跡を有するも爾の言ひ盡されぬ光榮の像なり主宰よ爾の造物に慈憐を垂れ爾の仁慈を以て我等を清め再び我等を天國に住む者と爲して我等に望む所の國を

予ひ給へ』安息日に於て生神女を謳歌するの讃詞願くは我等より肉体の情慾を去り我等に肉体の慾を悉く踐みて屬神の度生を行ひ我が思ふ所行ふ所皆爾の喜と爲るを致させ給へ(早課式第九祝文)

○主よ原像が其像を己に汲収し自化して之に居り之に住むこと當然なるが如く爾の像に依りて造られたる者も熱愛を以て全力を盡して原像に進み就き之に附着すべきの理の當然なり然れども此の我が貪婪嗜欲肥大頑固なる肉体は吾人をして爾と背離せしむ吾人には齋戒と節制必要なり而も吾人の情慾を嗜むこと際限なし願くは吾人を節制に固らせよ。

○吾人の心にハリストス在ます時は吾人は万事に於て満足なり不便



不利のまとも吾人に取りて最大利便の如く辛きことも甘きもの、如く貧も富の如く飢も飽食の如く憂悲も喜悅の如し只若しハリストスにして心に在らざる時は人は何事に於ても満足せず何事に於ても幸福を感せず健康の時に於ても利便の時には位階高きも名譽を博するも快樂の時も金殿玉樓に住むも山水の珍味を陳列したる食卓に就くも美服を纏ふも其他何事に於ても幸福を感ずることなしア、施生者及び我が靈魂の救者たるハリストスの人間に取りて必要なること如何にぞや。ハリストスの爲め即ちハリストスをして我等の裡に居らしめんが爲めには飢を忍び渴を忍び睡眠を貪らず衣服を質素にし悠悠々恒忍善良の精神を以て万事を忍ぶの必要なること其れ此の如し我々

靈魂の捕獵者なる惡魔は時々刻々吾人の靈魂を捕獲し罪を以て愆を以て之を傷害し惡習慣又は情慾を更に強く其心中に扶殖し靈魂の救贖は成るべく之を至難にし人をして神に對し神聖の事物に對し教會に對し永遠に對し人類に對して冷淡ならしめんとするもの、如し。○夫れ神は我を造り無より化して有と爲し己の苦難と死とを以て沈淪者を回復し罪人を清めて之を己の子とし我に約するに永遠の嗣業を以てし我を照すに己の福音の光を以てし慈愛的に我を罰し又我を憐み太陽をして我を照さしめ日々甘味の飲食物を以て我に賜ひ就中最も美味なる己の施生的の食物なる体血を以て我に手へ我が呼吸の爲に空氣を漲らし就中己の聖神を以て我に注ぎ美服を以て我に纏は



せ就中聖書に「ハリストスに於て洗を受けし者はハリストスを衣たり」

(加拉太三の廿七)と云ふに應じ冥々裡に己を以て我に衣せ廣潤清潔の住所に我を安息せしめ我に約するに永遠の光明なる在天の住所を以てし我に賜ふに健康を以てし祈禱就中聖機密に由りて豊かに屬神的の健康を我に賜ふ等其恩勝て數ふべからず我何を以て之に報へんか何を以てせば果して之に酬ゆるを得べきか我が力の及ばん限り神の誠を遵行して忠順を守り毅然として罪と惡魔とに反抗するの外なきのみ。

○主よ若し爾の救贖なく爾の仁慈徹つせば吾人恐らくは己の慾火の爐中に焼死し撤但は吾人をして全く腐敗せしめ吾人を苦め吾人は生

涯如何なる快樂をも見ること能ひざりしならん主若し我等に臨まざりせば我等の中何人たりとも敵の闘争に逆ひて勝つを得ざりしあらん蓋し能く勝つ者は此世より擧げらるればなり(偈和詞第六の調然れども今や爾が爾の苦難と血と死にて我等の爲よ得たる爾の矜恤恩寵の吾人を慰む人を憐む者よ之が爲め爾に光榮を歸すされど爾を識り爾の誠と爾の教とを知ること欲せざるハリストスティアニンの運命果して如何ぞや噫彼等は禍なる哉。

○我が主神イエスハリストスよ聖體禮儀の時聖なる寶座の上の聖孟に於て若くは爾の司祭が病者に聖機密を授けんとし之を己の手に携へて住き又は返る時聖體保存器に於て爾の至淨の機密よりして己



に當りては心の潔白を思念し主に清潔の心を賜はんことを求め神よ  
 清潔き心を我に造り給へ」と言へ汝新衣を裁し之を服する時は靈魂の  
 更新のことを思念し主よ「正直き靈を我の衷に改め給へ」と言へ(聖詠五  
 十の十二)汝舊衣を蔑視して之を棄る時は罪に溺れ慾に耽る肉體的の  
 舊人を大に蔑視して棄て去るべきことを思へ汝甘き麵包を食ふ時は  
 靈魂に永生を予ふる眞誠の麵包なるハリストスの体血のことを思ひ  
 此麵包を渴望し屢之を領食せんことを切望せよ汝水或ハ茶或は甘き  
 蜂蜜或は其他の飲料を飲む時ハ情慾にて燒かる、靈魂の渴を止むる  
 眞誠の飲料なる救世主の至淨施生的の血のことを思へ汝日中休息す  
 ることあらば此世に於て罪及び天の下の惡靈人間の不實若くは愚昧

粗暴と闘ふ者に預備せられたる永遠の安息のことを思へ汝夜半寢に  
 就かんか早晚必ず各人の遭遇すべき死の永眠と悔改せざる罪人の投  
 せられんとする永遠暗黒の恐るべき夜のことを思へ汝朝起るときは  
 現時の太陽の日より明皎々として暮れざる永遠の日——即ち凡そ神の  
 悦ぶ所と爲りたる者若くは現世に於て誠心悔改したる者の歡樂を極  
 めんとする天國の日のことを思へ汝何處にか往くことあらんハ神の  
 面前に靈魂にて正しく歩むことを思ひ「我が足を爾の言に固め給へ諸  
 の不法の我を制するを許す毋れ」聖詠百十八の百卅三と曰へ又汝何事  
 をか行ふことあらんか夫の事を行ふに無限の睿知と己の仁慈と全能  
 とを以てし己の像に肖せて汝を造りたる神造物主のことを思念して



の神性の光を發したらんには如何ぞや、凡そ之に遭ふ者又は己の家より之を眺むる者恐らくは其異光を見て恐懼地に伏するに至らん何となれば天使も爾の近づくべからざる光を見るを恐れて隠るればなり、而も此の天上の機密を取扱ひ聖機密の畏るべき聖務を執行するに冷淡なる者あるは豈嘆すべきの至ならずや。

○我は常に己の神に對する關係を以て一には造物の造物主に對する如く工藝品の工匠に對する如く土器の泥工に對する如きものと思ひ又一には肖像の原像に對する如く父の子に對する如く被救者の救主に對する如く恩を蒙りたる人の恩人に對する如く法律の制裁を受くる者の立法者に對する如く被契約者の契約人に對する如く聘定女の

聘定者に對する如く若くは新婦の新郎に對する如く天上の城の民の其城主に對する如く來世を望む者の其世の父に對する如く被裁判人の裁判官に對する如きものと思はざるべからず。

○万事に於て常に神の歡を得んことを努め己の靈魂の罪と惡魔より救はれ之を神に付屬せんことを慮れよ汝榻より起き十字架を畫して『父及び子及び聖神の名に依る』と云ひ而して後主よ我等を守り罪なくして此日を渡らせ給へ……『爾の旨を行ふを我に教へ給へ』早課の至高きには光榮神に歸すの歌と云ふべし汝家に於て若くは浴場に於て浴する時は則ち曰へ主よ『ソープを以て我に洗げよ然せば我潔くあらん我を滌へよ然せば我雪より白くならん』と聖詠五十の九汝襯衣を着る



に當りては心の潔白を思念し主に清潔の心を賜はんことを求め神よ  
 清潔き心を我に造り給へ』と言へ汝新衣を裁し之を服する時は靈魂の  
 更新のこゝを思念し主よ『正直き靈を我の衷に改め給へ』と言へ(聖詠五  
 十の十二)汝舊衣を蔑視して之を棄る時は罪に溺れ慾に耽る肉體的の  
 舊人を大に蔑視して棄て去るべきことを思へ汝甘き麵包を食ふ時は  
 靈魂に永生を予ふる眞誠の麵包なるハリストスの体血のことを思ひ  
 此麵包を渴望し屢之を領食せんことを切望せよ汝水或ハ茶或は甘き  
 蜂蜜或は其他の飲料を飲む時の情慾にて燒かるゝ靈魂の渴を止むる  
 眞誠の飲料なる救世主の至淨施生的の血のことを思へ汝日中休息す  
 ることあらば此世に於て罪及び天の下の惡靈人間の不實若くは愚昧

粗暴と闘ふ者に預備せられたる永遠の安息のことを思へ汝夜半寢に  
 就かんか早晚必ず各人の遭遇すべき死の永眠と悔改せざる罪人の投  
 せられんとする永遠暗黒の恐るべき夜のことを思へ汝朝起るときは  
 現時の太陽の日より明皎々として暮れざる永遠の日——即ち凡そ神の  
 悦ぶ所と爲りたる者若くは現世に於て誠心悔改したる者の歡樂を極  
 めんとする天國の日のことを思へ汝何處にか往くことあらん神の  
 面前に靈魂にて正しく歩むことを思ひ『我が足を爾の言に固め給へ諸  
 の不法の我を制するを許す毋れ』聖詠百十八の百卅三と曰へ又汝何事  
 をか行ふことあらんか夫の事を行ふに無限の睿知と己の仁慈と全能  
 とを以てし己の像に肖せて汝を造りたる神造物主のことを思念して



其事を行ふを努めよ汝金若くは財寶を得若くは之を有せんか身靈の有らゆる寶の由りて出づる無盡藏の寶庫諸の幸福の常に流れ出る泉は則ち神なりと思ひ誠實之に感謝して己の寶を己の裡に秘し以て價すべからざるの生きたる寶物なる神の己の心に入るの途を梗塞せず乃ち己の財寶を分ちて汝に求むる貧困の兄弟に與へよ彼等の此世に生存するは汝をして彼等に己の愛と神に對する感謝の意を表彰せしめ之に由りて永遠に神より賞を得せしめんが爲あり汝皎々たる銀貨を見ることあらんか之が爲に心を惑はさるゝことなく乃ち汝の靈魂が皓々としてハリストスの徳又輝かざるべからざる所以を思へ汝金光燦爛たる金貨を見ることあらんか之に心を奪はるゝことなく乃ち

汝の靈魂が火にて鍊られたる金の如くならざるべからざる所以を思ひ主が己の父の光明なる永遠の國に於て汝を太陽の如く輝かさんと欲し汝は没することなき公義の太陽——三位に於ける神と至聖なる女宰生神女并に總ての天軍と諸聖人の得て形容すべからざる光に滿被し光輝燦爛たるを見んとするを想ふべし。  
 ○主よ我は爾が我及び其他の人々に絶えず賜ふ所の至大の恩惠の爲め爾に献ぐるに何を以てし爾に感謝するに何を以てすべきか蓋し我ハ一瞬一秒毎に爾の聖神にて生氣を付せられ爾が漲らす所の爽快にして身体を健康強壯あらしむる空氣を呼吸し爾の人を樂ましむる施生屬神的及び物質的の光にて照され美味施生屬神的の食物と同様の



飲料なる爾の体血の聖機密と物質的飲食にて養はれ爾はハリストスに由りて洗を受くる者はハリストスを衣る(加拉太八の廿七てふ聖書の言に基き極めて光明美麗なるの王衣たる己れ自身と通常の服とを以て我に衣せ我が罪過を淨め我が多くの猛烈なる有罪の情慾を愈して之を淨め爾の無限の仁慈睿智能力の國に於て我が靈魂の腐敗を一掃し爾の聖神―神聖と恩寵の神とを以て我も滿て我が靈魂に賜ふに公義平和喜悅寛濶能力勇敢剛氣を以てし我身体に興ふるに貴重の健康を以てし我が救贖及び幸福の無形の敵神聖及び爾の光榮の國の敵天の下の悪靈に對し我が手に戦闘を教へ我が指に攻撃を誨へ(聖詠百四十三の二)爾の名に因りて行ふ所の我が事業をして功を奏せしむ

神救世主吾が恩者よ我は此等万事の爲に爾の至仁至愛全能の能力を感謝頌揚讚美すされと慈憐深き主よ他の人々をして亦爾の我に示せし如く爾を識らしめ之をして爾万民の父と爾の仁慈爾の照管爾の睿智能力を認め父及び聖神と共に今も何時も世々に爾を讚揚せしめよ、アミン。

○言ひ盡し難き爾の顔の美を見し者の喜びは限りなし(早課祝文)此世の快樂は快樂其者の性質と人生の變轉定らざるに由りて皆不常のものなり只夫れ在天の幸福の快樂に至りては終りなく限りなし吾人豈浮世の快樂就中忽ちにして過ぎ去る生命の快樂を一擲し全心を傾けて屬神的不變不易の快樂を愛すべきに非ずや。



○嫉妬の「ハリストス・ティアニン」に取りて愚の至りたり吾人は皆ハリストスに於て無限に大なる幸福を受け皆神恩に浴し皆天國の得て形容すべからざる永遠の幸福を嗣く者と爲れり且夫れ此世に幸福に至りても神の義と天國を求むるを條件として足れりとすべきことを誠められたり曰く爾等先づ神の國と其義とを求めよ然らば此等のもの皆爾等に加はらんと馬太六の卅三又吾人は自ら有する所のものを以て足れりとし貪婪者と爲るべからざるを誠められたり即ち爾等貪婪に習ふ勿れ有つ所を以て足れりよとせよと言ひたる後曰く蓋し彼(主)自ら云へり我爾を棄てず爾を遣さばらん希伯來十三の五と夫れ己に此の如くなるに於ては他人の名譽富貴美食美衣高樓大廈等を妬むこと豈愚の

至ならずや此等のものは吾人の造られたる神の像と神の子の吾人を罪と誣と死より救贖したる事と吾人に再び在天の父の祝福并に之と共に在天永遠の安樂を賜はりたることに於て吾人に與へられたる鴻恩に比すれば塵埃も當ならざるに非ずやされば吾人の力めて相愛すること人の幸福を望み己の所有を以て満足すること友誼款待を旨とする事と貧困に甘んずること旅人を好遇すること并に諸徳の絶頂たる謙遜善良温厚神聖等を求めん吾人は神の像ハリストス神の肢彼の體神の嗣子天國の民天使の同住者謳歌者として互に相敬せん三位に於て崇拜せらるる我等の神は惟一にして吾人の心をも亦惟一即ち單純のものとして造りたるに由り我等も皆一と爲らん約翰十七の廿一、



○現世のものは皆是れ來世の影のみ即ち光は來世の得て形容すべからざる光の影にして此世の快樂は來世の得て形容すべからざる無限の快樂の微々たる片影のみ火も亦是れ永遠に罪人を燬かんとする來世の地獄の火の片影にして此世の純粹の歡喜は來世の得て形容すべからざる歡喜の影のみ王者の金殿玉樓は之を神を愛し其誠を遵行する者に備へらるゝ天國の四面玲瓏たる第宅に比すれば取るに足らざる小片影にして今男女の纏へる錦衣美服の如き神に選ばれたる者の纏はんとする光榮の服に比すべくもあらず何となれば彼等はハリストスを衣救主の偽あらざる約に應じその父の國に於て日の如く輝か

んとすればなり(馬太十三の四十三)

○小兒は如何なる服を纏ふも意と爲さる如くハリストスに於ける嬰兒なる「ハリストスティアニン」もハリストス神のみを以て最良不朽の衣と爲し此世の衣服の種類と其饒多なると美麗なることに對して須く冷淡なるべし蓋し貴き美服に戀々たるは主の言ふ如く斯世の人々若くは異教人に相當することなり曰く是れ皆(即ち美衣美食)異教人の求むる所なりと(馬太六の卅一)何とあれバ衣服は斯世の人々の偶像なり。吾人神と交親すべく召されたる者永遠不朽の幸福を嗣くに召されたる者は何ぞ夫れ虚あるや朽つべき物と朽ちざる幸福に關する吾人の理解は何ぞ爾く不明なるや吾人は取るに足らざる事物にのみ重きを



置き己の永遠の靈魂の不朽の幸福たる安和喜悅神に對して毅然たる  
みと神聖服従忍耐等要するに眞正の「ハリステイア」の具有すべき總  
ての性質を重んぜざるが如き實に愚なりと謂ふべし。ハリステイアに於  
て洗を受けたる者はハリステイアを衣たり加拉太三の廿七されば吾人  
は靈魂の幸福たる善徳を重んじ物質的の幸福は朽つるもの取るに足  
らざるものとして之を蔑視せざるべからず。

○吾人の皆太く溺るゝ罪あり放心是あり吾人の宜しく之を忘れずし  
て後悔せざるべからず吾人は家裡に於てのみならず聖堂に於ても放  
心するなり。シモンよシモンよ視よ撒但爾等を麥の如く簸はんことを  
求めたり然れども我爾の爲に爾の信の盡きざらんことを禱れり(路加

廿二の卅一)放心の因たるものは悪魔と此世の事物に對する種々の嗜  
好なり其原因は弱信にして之を治する方法は熱心の祈禱なり。

○主イエスハリステイアと其父及び聖神との外此世に於て我が幸福  
とすべきものなし。彼の實に我が此世に於ける惟一の幸福なり。神に次  
て此世に我に取りて人間の靈魂ほど貴きものあらじ爾かあるべき  
理なり。靈魂は實に何よりも貴し。人間は是れ貴重のものなり。神自ら之  
を救ふが爲に地に降りたり。彼が人に至淨の体血己れ全体を予へて食  
飲と爲さしむる所以のものは只之をして幸福ならしめ滅亡せざらし  
めんが爲のみ。彼は地上の有らゆる産物此世の三界の寶物を以て悉く  
之を人間の司配に委ねその利益快樂に供したり。主は此の數限りなき



鴻恩を以て際限なく人類を愛し各人を殊別に愛することを表明す吾  
 人も須く神の至愛鴻恩に則り吾人の天の父の憐み深さが如く吾人も  
 力の及ばん限り慈憐寛仁なるべし(路加六の卅六)  
 ○心の目を以て己の裡を見るも己を見るも將た己の外を見るも到る  
 處として主を感謝頌讚するの有力なる發端を見ざるなし就中獨り己  
 の裡を顧る時は祈願感謝頌讚の最も有力なる發端を見る我が心の力  
 我が心の目に映ずる光は皆神よりし身体の強壯と凡そ身体の生命を  
 維持するに益するものは皆神よりするあり我が見る處として我が神  
 の惟一の光榮ならざるなし己のものとして誇り得べきものは己の裡  
 よ一も之を見ず我に力を賜ふ者に光榮を歸す我を以て及び我に於て

作用する者に光榮を歸す我は己のものは一も之を有せず我が心中の  
 極微の善良の動作神聖光明なる思想に至るまで皆之を神より受け神  
 に由らざれば我は微々有る無きが如きものにして寧ろ諸悪なり是れ  
 我が万事の爲に神に祈願すべき有力の原因なり就中彼の至淨施生的  
 の機密なる体血の爲に我は我が神に感謝せざるべからず此機密は皆  
 實に我が爲に設けられたるなり我は主神イエスハリストスの聖機  
 密に於て我等死すべき者に現はしたる測るべからざる愛の爲熱心彼  
 を頌讚す。  
 ○人間が神の前に己の口を啓きて彼と談話し彼に己の需要を訴ひ其  
 恩惠の爲め彼に感謝し其の得て形容すべからざる威嚴の爲め彼を頌



讚し而して此の感謝及び頌讚の献祭が神の嘉する所と爲り吾人の靈魂の救贖に關する善良屬神的の祈願が常に必ず成るを信するを得る。所以のものは是れ人類に取りて測るべからざる至大の名譽なり人は此点に於ても有形有生の諸造物に秀ぶること測るべからずと謂ふべし。夫の造物は假令其天性の需要を言ひ顯はすの舌を有す——蓋し鴉の雛も主を呼ぶ(聖詠百四十六の九)と言へばなり——と雖もその一も神より斯かる名譽を受けざるなり吾人は須く此の高尙の名譽を利用し以て主より更に大なる名譽たる天職を得るを努めん吾人の完全ある光榮は夫の天に在るものにして此世に於ては忠實ある「ハリストイアニン」に對し僅に其一端を表現せらるゝのみ。

○吾人の肉身的と風神的なるに由りて主は己の恩寵を有形物質的のものど合し甚しきは己全体を以て之と合し萬事に由りて事を行ふ例へば麵包と葡萄酒を以て己の体血若くは己の有形の會幕と爲し聖堂を以て己の室と爲し聖堂の寶座には王として冥々裡に之に坐し十字架にの恰も其の會て釘せられたると同様の体を以て自ら之に現はれ十字架に由りて奇跡を行ひ以て己の施生的能力を顯し彼如何なる空間にても限られず常に總ての空間及び時間の上に超然としつゝ全世界にも聖堂に於けるが如く其全体を以て總ての場所に在るなり。汝は彼が己自ら若く己の能力救贖的の恩寵を以て物質と合するを異とす。されど汝は先づ神が如何にして人間に於て己の神の像を物質



即ち土若くは塵と合したるか而して此塵が思想し談話し己の側に温  
 柔公義真理仁愛の馨を放ち社會に於て眞に奇異偉大の事業を行ふを  
 得るかを異とせよ汝ハ又生命及び喜悅を渴望するの念自衛の感情自  
 ら食を求め生活を安全にし世に己の子を生むが爲め必要のものを造  
 り自ら防禦する等の思想を賦せられたる諸種の無性靈的の魂魄の如  
 何にして塵に包含せられたるかを異とせよ汝は不生活の物体に殆ど  
 悉く接觸すべからざる無形の能力相合して或は其巨大の物体例へば  
 日月星辰の如きを動かし或は之を常に同一不變ある美妙の形例へば  
 植物の如きに組立つるかを異とせよ汝は神に造られたる能力は爾く  
 種々雑多なるも其能力は惟一の能力より出て、全能者自ら諸の能力

を經て作爲するを異とせよ實に神造物主は奇異の神なるを以て其の  
 爲す所一として奇異あらざるなく信仰に於ても亦奇異なり而して其  
 奇異なる点は見えずと雖も眞實なり實際なり。  
 ○心の清き者の神を見んとす馬太五の八神は見ざる所なきの目にし  
 て恰も世界の上に立ち無形の目にて人の思想意志を洞觀し萬物を照  
 らす無形的の太陽の如し吾人の靈魂は目(神)より出てたるの目(視官神)  
 より出てたるの視官光(神)より出てたるの光なり然れども今日罪に陥  
 りたる後に於ては吾人の目なる靈魂には疾病たる罪あり汝先づ眼  
 球の翳を拭ひ去れ然らば物質的の太陽よりも幾万倍光輝赫灼たる無形  
 の太陽無究の目を看ん。



○人は生活上心に思ふ所と口に言ふ所とを異にし同時に二心の人と爲ること往々之あるが如く祈禱に於ても亦心中の機微を洞見する神の前に對して時として二心の人と爲りて其の口に言ふ所と思想及び意中に懷抱する所と相異なることあり若し屢々之れある如く假令祈禱の意を了解し之を思念すと雖も其心は死するが如くにして自ら言ふ所に同情を表せずんば是れ自ら欺き此の如き祈禱を以て神に悦ばるべしと妄想し徒らに言語を空中に投ずるものなり嗚呼是れ何等奇怪有罪的の二心ぞ是れ吾人の罪に陥りたる苦々しき結果及び其證詰なり祈禱に於て并に人々と交際するに當りて僞るは恰も吾人の心の慣習なるが如し是詐僞の柱なり人皆虚し—聖詠百十五の二「ハリスティ

アニン「たる者は心中より悉く詐僞を根絶し之に純乎たる眞實を扶殖するみどに全力を注がざるべからず先づ祈禱より之を始むべし蓋し祈禱の神を以て眞を以て拜すべし約翰四の廿四といへる主の言に依るに首として心の眞實を要するものなればなり其心に眞實を言ふ(聖詠十四の二參看)吾人は祈禱に於て心中に眞實を言ふことを學びて平素生活上に於ても僞るべからず赤心より出づる眞誠の祈禱は吾人の心を詐僞より清めつゝ俗事に關する人々との交際に於ても之を詐僞より預防す如何にして祈禱に於て心にて眞實を言ふことを學ぶべきか一々祈禱の言を心に透徹し心に之を銘し心にて其眞理を悟得し吾人が祈禱に於て神に請ふ所のもの、吾人に取りて必要欠くべからざ



るを確認し神の吾人に對する勝て數ふべからざる至大の恩惠の爲め誠心感謝するの必要と彼の造化に顯ひされたる至大睿智の事業の爲め誠實頌讚するの必要を確認すべし。

○凡そ我れ—人間を成す所のもの(靈魂)は獨り神にて生き單に神と体合するに由りてのみ生を保つものにして神を離るれば極めて貧しくなるなり。而も我が靈魂の生命なるものは我が精神的能力の平安にして此平安は獨り神より出つ肉体の平安も亦之れありと雖も是れ虚幻的の平安にして心靈的暴雨の前兆のみ主は此平安のことを謂て曰く人が平安無事なりと言はんとき亡滅忽ち彼等に至らんと帖撒前書五の三されど神の神より出つる屬神的平安は肉體的の平安と其の相異

なること猶霄壤の差あるごとし屬神的平安は天に屬するもの幸福を來すものなり。主は屢々己の門徒に向ひて爾等に平安と云ひ以て之に己の平安を賜ひ使徒も亦信者に神の平安を予へ且此の神の平安を首たる幸福として信者に之を得んことを望みたり何となれば平安は即ち吾人の靈魂の生命にして吾人の靈魂の神と体合することを證するものなればなり。靈魂に平安を欠き心中の惑亂—吾人の靈魂の情慾的の狀態之が特徴たり—するは是れ靈魂の死にして吾人の心中に我が靈魂の救贖の敵の其作用を逞うする兆候なり。

○夫れ信は神の寶庫を啓くの鍵にして眞率善良博愛の心に存す爾若し幾何か信することを能せば信する者には能せざることなし(馬可九



の廿三信は靈魂の口なり其の開くこと濶大なるに従つて神聖的の泉  
 の之に入ることも亦甚だ豊かなり吾人宜しく肉体の口の如く此口を開  
 き疑團不信を以て之を縮少すべからず汝疑團不信を以て之を鎖さん  
 か神の幸福の寶庫は汝の爲に鎖さるべし汝は豁然赤誠を以て神の全  
 能を信せば神の心も汝の爲め亦豊かに開かるゝあり凡そ祈禱の時に  
 求むる所は之を得んと信せよ然らば爾等に成らん馬可十一の廿四  
 ○人間は皆是れ惟一の神の呼吸及び造物にして皆神より出て恰も已  
 の本原に對する如く神に歸るなり塵は本のごとくに土に皈り靈魂は  
 これを賦けし神に皈るべし傳道十二の七我等世にある慾の敗壞を脱  
 れて神の性に與かる者とあらん彼得後書一の四人間は惟一の神の呼

吸にして惟一の人より出でたる者なるを以て互に相愛し相保ち自愛  
 驕傲憎惡嫉妬吝嗇交際嫌ひ等にて相隔離することなく衆皆一と爲る  
 べきは約翰十七の廿一廿二當然なり試に蟻を見よ何ぞ其れ親密なる  
 や蜜蜂を見よ何ぞ其れ親睦なるや鳩や鴉や鷺鳥や家鴨や白鳥や雀の  
 群を見よ何ぞ其れ睦しきや羊及び其他凡そ角ある家畜の群を見よ何  
 ぞ其れ親しきや夫の必ず群を爲して海河を遊泳するを好む魚類の群  
 を想像せよその睦しきこと如何ぞや彼等が猶且熱心に相保護し相愛  
 するを思ふて汝愛に於て生活せず他人の荷を負ふこと(加拉太六の二)  
 を避くる者ハ宜しく無心無魂の者に對して慚死せよ  
 ○神は汝に對して寛容慈憐なり是れ汝の日々幾度も實驗する所なら



ん汝も亦己の兄弟に對し寛容慈憐を垂れ以て使徒の言を履行せよ使徒は首として愛のことを説き愛は寛忍し矜恤す(哥林多前書十三の四)と云へり汝の主の愛を蒙りて樂まんと欲するか汝も宜しく慈愛と款待を以て他人の心を樂ましむべし。

○神は愛にして鴻仁睿智全能の者たり故に祈禱する者は凡そ其の有益需要のものに主宰の必ず之を賜ふを信じ彼が愛且鴻仁者たるを以て豊かに之を賜ひ睿智者たるを以て之を賜ふこと機宜に適し全能者たるを以て人の期せざる所期せざる時に賜ふを信すべし。

○奉神禮の時及び凡そ機密并に祈禱の行はるゝ時には自ら確信すること猶子の父母に對するがごとくすべし汝須く偉大の神父等聖神に

照されたる普世の光たる人々が汝を指導するを記憶せよ汝は小兒の如く質樸にして神の事業に對し確信して疑ふこと勿れ憂悲は悉く之を主に負ひしめて自ら決して憂ふる勿れ爾等如何に或は何を言ふべきを慮る勿れ爾等の父の神は爾等の裏に言はん馬太十の十九廿主は己の神をして吾人の捧神諸父に諭さしむるに奉神禮の時機密執行の時并に凡そ上よりの降福を求むべき祈禱を爲すを要する諸種の事件と場合の際して主お言ふべきことを以てして夙に吾人より此等の慮と憂悲とを取除きたるなり吾人の祈禱は固より容易なるべき理にして敵は吾人を惱ますのみされど若し吾人の心にして主に堅く立ちたらんには敵の苦惱何あらん只若吾人にして神に居らす吾人に確乎



たる信仰なく世習俗癖に其身を委ね吾人の智識驕傲尊大ならんには奉神禮并に聖機密の執行領聖の如き神聖無玷の事業に於ても悪魔は強く吾人を蹂躙せん是れ禍なり。

○吾人の自ら靈魂上の情態にては眞に衆人に劣れるものにして即ち何人よりも罪深く力弱き者なりと思ひ人と交るに當りて可及的溫柔謙遜眞率なるべし汝曰へ我は罪人の中第一なりと凡そ人が己より賤しき者又は己の利益を得るの望なき者に對して暴慢の舉に出で毫末の誠意なき冷淡の振舞を爲すものは皆是れ傲慢より出るなり。

○吾人が惡に進むこと何ぞ速にして善に進むの何ぞ遅きや我敵に對して善良の人と爲り實地に己の善意と表せんと欲するも我の心中に

於て善と爲るに先だち我は己に邪にして奸惡の火箭は我が内心を焼く我は忍耐家と爲らんと欲するも我の心を忍耐に堅定するに先だち我が情激し我が心性急と爲る我は謙遜家と爲らんと欲するも撒但的の驕傲は己に我が裡に廣漠たる區域を占む我は愛嬌家と爲らんと欲するも愛嬌を施すべき時に臨んで粗暴の行を爲す我は正廉慈善の人たらんと欲するも貪慾と吝嗇とは苟も乗すべき機會あれば飢て吼ゆる獅子の如く自ら食を求めんとす我は質撲且信用篤き人たらんと欲するも狡猾と猜疑とは己に我が心を噛む我は全能者に對する奉事に於て端正熱中敬虔たらんと欲するも輕浮と不注意とは己に機先を制す我は飲食に對して淡泊節制の人たらんと欲するも食卓に就きて美



味好醇を見る時は我は恰も捕虜の如く己の腹に誘はれて虜とせられ  
 我が天性の要求するよりも更に多く飲食するに至る即ち貪慾と不節  
 制は復た我が飲食に對して冷淡ならんと欲するの望に對して機先を  
 制し之に勝つなり我は恰も夫の三十八年間病の牀に臥し凡そ天使の  
 水を動かしたる後最初に入りたる者を醫したる羊の池に幾度至るも  
 他人に先んせられたる病者に等し(約翰五の七罪にて衰弱したるの我  
 は神の裡に沈み改善せんとして力めて己を省みる時は他の者我に先  
 だちて我が心に浸入し罪と悪魔とは我に先だちて我が家我が心中の  
 池に在り我をして活水の源なる主に至らしめず我をして信仰謙遜痛  
 悔熱涙の人を清むる池に入るを得せしめず我を醫す者は果して誰ぞ

獨りイエスハリストスあるのみ彼にして我の病を愈されんと欲す  
 る誠實堅固の望を見我の之を求むる熱心の祈禱を聞かば我に向て爾  
 の牀を取りて行け(約翰五の八)と云ん然る時我は心中の病の床より  
 起きて歩まん即ち彼の恩寵に由り諸慾に克ちて諸善を行ふを得ん。  
 ○祈禱に於ては充分熱慮したる謙遜必要あり宜く其の言ふ者の誰か  
 るか言ふ所の何なるかを思念せざるべからず就中「天に在す我等の父  
 よ」の主禱を誦する時に於て殊に然りとす謙遜は敵の諸の奸計を打破  
 す嗚呼吾人の裡に秘密の驕傲何ぞ夫れ多きや是れ我の知る所なり我  
 之を要せず是れ我が爲めのものたらず是れ過分のものなり我は此罪  
 を犯さずとは吾人の常に言ふ所あり自家の妄想果して幾何ぞ。



○罪と慾と悪魔との瞬く間に人の相貌を變じ快活の相を變じて險惡と爲し善を化して惡と爲す茲に於ても須く靈魂の化能力を認むべし。人俳優を評して非常に速に面相を變じ感情に非常に迅速の變遷を來して之を其顔に現はすと云ふ人間の靈魂何事にか堪能ならざる若し夫れ人間の靈魂は斯くも迅速に己の面相を變じ斯くも烈しく之を變するを得るとせんには万物の造化者豈在らざる所なく獨り有る者として有らゆる物より其意のまゝに造らざることあらんや。

○汝祈禱する時の諸種の邪念誘惑に對して己の心に曰へ主は萬事我が爲めにすと此の如く畢生の間情慾の攻撃に際し敵の壓迫に際し疾病憂悲災難困厄に際して曰へ主は萬事我が爲めにす我れ獨力にてい

何事も行ふ能はず何事も忍ぶ能はず制する能はず勝つ能はず——主の即ち勢力なりと。

○此の姦惡の世に於て我及び我の言の耻ぢん者は人の子も亦彼を耻ぢんと馬可入の三十八嗚呼耻づべき耻辱なる哉嗚呼惡魔的の耻辱なる哉嗚呼是れ底なき井より出づる撒但の臭氣なり汝の爲に惱まざる者何ぞ多きや汝の嬌態を知らずして汝に役事し以て己の靈魂を亡ぼす者何ぞ多きや世俗の操觚者新聞記者の輩此類あり彼等は日々筆硯を事としてその文學的若くは美文學的の文を綴るの間に何事か筆にせざるものやある而も神のごと教主イエス Kristus のみと教會のごと奉神禮のみと、ハリストス 教の祭日のこと我等の肉体の復活の



こと、審判のこと來世の生活のことに就きて一言たりとも言ふ所あるか。彼等曰く是れ我が領分に非ず是れ我に關する事に非ず吾人は斯世に屬し斯世に代りて言ふ故に世は吾人に耳を傾く神のことを言はんか。恐らく吾人の文を讀む者無らんと是の如く世俗の文學は全くハリストス教の精神を體せざるものにしてハリストスの精神を耻つることすらあり。

○惡魔は吾人をして己に對して激せしむるの代り狡猾に吾人を教唆し吾人をして隣の罪を認め以て心を激し人に對して憤怒し之を蔑視するの念を起さしめ吾人をして人々并に主神其者に對して常に仇敵の間柄たらしめんとす故に吾人は須く罪過其者を蔑視して惡魔の煽

動に由り荏弱習慣等に由りて之を行ふの人を蔑如すべからず人は宜く之を憐惜し健忘の人或は病人とし己の罪の囚虜奴隸たる者として溫柔を以て愛情を以て之を諭さるべからず夫の罪を犯せる人に對し忿怒侮蔑を加ふる如きは徒らに其人の疾病健忘屬神的の囚虜を増長するのみにして之を減するものに非ず加之ならず吾人をして恰も狂人たらしめ病人たらしめ己の怨と其主因たる惡魔の捕虜たらしむるものなり。

○凡そ罪なるものは皆奸惡の神より出づ罪の中に在る者は罪の奴隸にして罪に裂かるゝ者なり故に人性の一般に荏弱なるを知り罪を犯す者を遇すること苛酷に失せず惡意を以てすべからず罪を犯す者は



病人とし迷ふ者とし五里霧中に彷徨する者とし鐵鎖に縛られたる者とし狂人として之を憐惜すべし蓋し此等の性質たる皆罪を犯す者若くは慾の作用の下に在る者に付するに適當なればなり吾人は須く充分に之を保護し罪の火をして之を焼き盡さしめず罪の之を味まさず之を縛らず之をして病に罹らしめず之を亡ぼさしめんことを努めざるべからず。

○吾人は甚だ神の工に慣れて之を尊ぶこと少く神の睿智と仁慈の至大の工及び奇跡たる人間の如きすら之を尊ぶこと遙に其當を得ず凡て人間は其の一家の人たると他人たるとを問はず常に神の世界に存する新奇のものと見做し神の睿智と仁慈の至大の奇跡と見做し之を

見慣れたるの一事を以て之を蔑視するの端と爲すべからず汝は恒に渝ることなく之を尊び之を愛せよ。

○萬有界に於て時として温暖爽快にして心地好く身体に感觸する風吹くときは天甚だ清し而も時として息苦しさ骨を貫く如く身体に觸れて不快の感を起さしむる寒風の吹荒むるとわれバ天地黯淡たり又或の時として氣候温暖駘蕩あることあり時として互寒人をして殆んど凍死せしめんとする如きことあり屬神的生活上に於ても亦是の如く爽快温暖蘇生の呼吸吾人の靈魂を包圍透徹することあり然るときは汝爽快安穩の感を爲さん而も時として懊惱人をして壓死せしめんとする如き呼吸心に觸れ屬神の暗黒之に伴ふことあり前者は神



の神より出るものにして後者の悪魔より出るなり。人は何事にも慣るること必要にして前者の場合に於ては高慢することなく後者の場合に於ては失望落膽せずして熱心神に向ふべし。

○若し人間は神の像に肖せて造られざりしならんには神は至淨至潔の處女よりして藉身せざりしならん。吾人の本性は創造に於ても救贖に於ても何ぞ夫れ高尚にせられたるや。神の子が至聖ある處生マリヤより藉身したるに由りて神は眞實人間と体合したり。ア、爾の最と榮えたる産よて神を人に合せ天に離れたる我が性を天に合せし者よ。晩堂大課至聖生神女に祈るの祝文有智の諸造物より當然讚榮せらるべき爾に光榮を歸す蓋し汝は神父の旨に依り聖神の佑助にて神子に藉

身せしむるに足るの貞潔と恩寵とを神より得たればなり。されど主よ我等として亦爾の子の体血の神聖なる機密を領するに因りて靈身を清潔にするを得せしめよ。

○主は己の籍身に由りて人間に最近の關係と爲れり。奇なる哉神自ら人間と合して一と爲り神は乃ち肉身と爲り言は肉体と成れり。約翰一の十四神自ら吾人の肉体の食物を食ひ吾人の飲料を飲み馬槽に寝ね家屋に住へり。天の容るゝこと能はざる者は足にて土や水や空氣を歩み(天に昇ると云へり)行實一の十一木に釘うたれ己の詔にて虚しさに地を懸けたり。イルモス第五の調土と水と空氣の皆悉く神の子の藉身にて神聖にせられたり。故に此の人間の一時の住處人類の旅寓神の



子の人間の間に住みたる場所なる此地は彼の愛する處あり然れども  
 靈身を己と一にしたるの人間就中眞誠の「ハリスティアニ」は殊に彼の  
 愛する所なり主は彼等に在りて彼等の主に在り。  
 ○人間に取りて最も望まじきもの何ぞ罪を避くること罪を棄て罪  
 を赦さるること神聖を求め得ること是なり是れ何故ぞ罪例へば人と  
 交るるに傲慢狡猾なること猜疑貪婪吝嗇嫉妬等は吾人をして生命の  
 源なる神より離れしめ人々との交際を絶ち靈的の死に陥らしむる者  
 にして諸人に對するは勿論吾人の敵に對しても猶且溫柔謙遜淡泊の  
 交際を爲し率直無慾些少必要のものを以て足れりとし人を矜恤し人  
 の榮達を望むこと并に其他の德行は皆吾人を生命の源なる神と合し

人々に愛せらるる者と爲せばなり故に主よ願くは我をして全く罪を  
 避け爾の恩寵に由りて諸徳に慣熟せしめよ主宰主よ我等惡きが故馬  
 太十二の三十四節に依らざれば一も善を行ふ能はざるなり。  
 ○吾人を憎む者或は吾人を嫉視する者吾人の前に傲慢する者に對し  
 ては吾人決して人間の傷められたる天性に相當する如く互に憎み怒  
 り又は傲るべからず乃ち彼等をば地獄の火焰に捲かれ屬神的の死に  
 罹りたる者として憐愍し心の底にて彼等の爲に祈り主に其靈魂の暗  
 を散じ恩寵の光を以て之を照さんことを求むべし吾人は己の愆にて  
 昏まされ其愆と己の行爲の醜陋を認めずと雖も主が一たび恩寵の光  
 を以て吾人を照す時は吾人は恰も夢の醒めたらん如く己の意思感情



言行の醜陋なるを明確に認め其時まで頑硬なりし吾人の心は和らぎ憎悪の念去りて仁慈愛嬌寛宥代りて其位置を占めん故に吾人は我が救主の言に循ひ敵たる者をも愛して誼ふ者を祝福し憎む者に善を施さるべからず(馬太五の四十四路加六の廿七廿八)何となれば彼等も亦盲目となりて五里霧中に彷徨する吾人の兄弟なればなり。

○現生は追放的の生活なり曰く主神彼を園より逐ひ出したりと(創世記三の廿三)故に吾人は皆痛悔及び痛悔に相當する行に由りて己の本國に至らんことに熱中せざるべからず主宰よ「我を再び天國に住む者と爲して羨望に堪へざる本國を我に賜へよ」生神女讚詞現生は狭き路憂悲究困疾病の路なり此路の狭ければ狭きはと吾人が眞誠の路に在

ること確實にして廣ければ廣きはと吾人の滅亡に近きものと疑おし現生は是れ吾人の救贖の敵就中夫の一日たりとも吾人をして安臥せしめず絶えず吾人に對して詭計を施し吾人の諸慾を燃起し其刺を以て痛く吾人を傷くる空中の無形奸惡の靈に對する日々の残忍苛酷なる戦争なり故に汝は宜く敵が吾人に對して絶えず挑戦するを記憶し來世に備ふるが爲め予へられたる現生に於ては吾人が災難に誘はるゝ時に於ても將又吾人が全く安穩幸福なる時例へば劇場に在り晚餐に在りて快樂に耽る時美服を纏ひ粧飾を凝して撮影する時口腹の樂を貪る時愉快ある舞踏を爲す時美麗ある馬車にて乗行く時に於ても安んず慰快樂すべき時に非ずと思ふべし人よ汝が浮世の娛樂に耽る時に於



て至大の不幸は汝の上に臨みつゝあり汝は罪人汝は神の敵にして汝の永生を失はんとするの危難に瀕しつゝあり就中汝懶惰の生活を爲し悔改に相當するの行を爲さざる時に於て然りとす汝の神の怒は汝に臨みつゝあり就中汝若し祈禱痛悔矯正を以て汝の侮辱したる神の怒を宥めざる時に於て然りとす夫れ然り故に汝は今快樂すべき時に非ずして撃る熱涙を注ぐべき時なり快樂は須く稀にすべし而して其快樂たる専ら汝に論すに心靈的の祝祭に對する信を以てするものたるべし。

○夫れ神は總ての物質世界の全能力なり就中屬神界即ち天使及び人間の奇々奧妙至仁至公なる能力なり總ての靈と其安息及び幸福は惡

靈并に惡人の鬱屈及び痛苦と共に彼の手裡に在り。

○吾人が時として己の靈魂の不淨暗黒奸惡なる情態を以て神を誹謗し父と言ふ至聖の神慰籍の神を謗瀆する如く靈魂の情態善良にして言を以て人々を慰むるを得るの人々の之を以て父と子と慰藉の神とを讚揚するなり是れ我等が自ら神より慰めらるゝ慰を以て凡の苦難に在る者を慰むるを得ればなり(哥林多後書一の四)

○主全能者』彼主の全能は高きにある遠きにある有智有形の諸造物天使及び人間天と凡そ天にあるもの他と凡そ地にあるもの海と凡そ海にあるものを包含し彼の全能は有らゆる萬物造物の凡ての部分を包括す是を以て其全能は人間の心と其思想とを包括す故に王の心は



主の手の中にありと云ひ(箴言廿一の二)使徒等も我等が能く己に由りて何をか思ふこと己に由るが如くするに非ず乃我等の能くする所は神に由るなりと云へり(哥林多後書三の五)若し夫れ神の恩寵我が心と我が智を棄てんか我の毫も徳義上の重さなく風に翻弄せらるゝ塵の如くなりて有らゆる惡に傾き易くなり我が智と我が心は空漠微々黯黒無力と爲らん。

○女幸なる處女マリヤは自ら愛なる神父の女我等の愛なる神言の母父と言と一体の愛なる聖神に選ばれたる新婦として凡ての人間の子女中最も慈善深き者なり焉んぞ斯かる女幸に頼り彼より屬神的の諸幸福を得んことを望まずして可ならんや。

○汝は須く己の靈魂に意と言と行の凡ての罪を憎むの確乎たる決心を懷きて罪に對する誘惑起るときは毅然として之を憎むの念を以て抵抗せよ只慎んで汝の嫌惡をして罪を行ふの發端を予ふる汝の兄弟の面に向はしめざらんことを戒めよ罪は心にて深く之を憎み兄弟を憐惜せよ宜しく之を諭し彼の爲め我等衆人を洞見し我等の内心を試むる至上者の前に祈れよ爾等は罪に敵し之と闘ひて未だ血を流すに至らざりき(希伯來十二の四)心中に罪を憎むの念確乎たらずんば屢之に陥るの恐あり自愛心は根底より之を抜き去らざるべからず凡そ罪は自愛心より起るなり罪は常に吾人に満足と安樂とを予ふることを約して吾人の好友たる体裁を裝ふ食ふに善く目に美麗しく且智慧



からん爲に慕はしき樹なり(創世記三の六)視よ罪の吾人の目に映する  
こと常に此の如し。

○若し守護の天使にして吾人を悪魔の奸計より保護するに非ずんば  
吾人は屢罪より罪に陥り人々の苦痛を見て樂みとする悪鬼の吾人を  
苦むること如何ばかりならん現に主が時として守護天使をして吾人  
より去らしめ悪鬼をして吾人の上に其奸計を逞うせしむることあり。  
吾人若し自ら肉慾驕傲疑惑不信の醜事を以て己より平和の天使確實  
の教導者吾人の靈身の保護者を逐はずんば常に吾人と偕にするなり。  
彼等が己の非物質的なる光榮の翼を以て汝を庇ふことは汝之感ず  
るが如くなるも只其實体を見ざらん善良の思想感情言行は皆彼等よ

り出るなり。

○敵は屢己の奸惡を以て吾人の靈魂を傷つけ吾人を焼爛す此の傷害  
は吾人の信より出づる誠實の祈禱を以て止むるに非ずんば壞疽の如  
く吾人の心中に瀰蔓するなり神も己の愛を以て吾人の靈魂を傷くと  
雖も此の傷害は輕快にして吾人を焼爛せず乃ち暖め且蘇らすあり。

○痛悔のこと』痛悔は誠心より出て全く自由任意的にして時と習慣  
若くは痛悔を聞く人に強ひられたるものたるべからず然らざれば痛  
悔に非ざるなり曰く悔改せよ天國通けりと馬太四の十七通けり即ち  
自ら來れり之を尋ねるに及ばず彼は爾等を尋ね汝等の自由の意思を  
求む即ち汝等自ら誠實痛悔すれば可なり(イオアン)より洗禮を受けた



る者は各己の罪を認めて洗禮を受けたり(馬太三の六)即ち己の罪を自  
 白したるなり。然り而して吾人の祈禱なる者は専ら痛悔と赦罪の願を  
 るに由り祈禱も常に必ず誠心より出て全く自由任意のものにして  
 不任意的のもの風俗習慣に強ひられたるものたるべからず。祈禱の感  
 謝頌讚たる時に於ても亦然り。人の感謝するは恩を感ずる人の靈魂に  
 其口を衝て自由に迸り出る自由活動的の感情充實したるに依る心に  
 充つる者は口に言ふなり(馬太十二の卅四)又頌讚するは人が徳義界及  
 び物質界に於ける神の無限の仁慈睿智全能の事業を觀察し驚嘆の情  
 勃然として起りたるに依るなり。故に感謝及び頌讚なる者も亦全く自  
 由有意的たるべきこと當然なり。要するに祈禱は自由任意にして人

間の靈魂の神の前に對する充分有心的の溢流たらざるべからず。我れ  
 主の前に我が靈を注ぐ(サムエルの母アンの祈禱)  
 ○主は吾人の祈禱を清め且熱せしめんが爲め惡魔をして吾人の心中  
 を痛く焼かしめ吾人をして己の裡に他の火あるを感じ之が苦痛を忍  
 びつゝ己の心に謙遜の祈禱を以て吾人の心を奮興する神の火聖神の  
 火を入るゝことに力を竭さしめんとす。  
 ○主は吾人を試みんが爲め敵との鬭争に於て吾人の屬神的勢力を鍛  
 練せしめんが爲め并に吾人をして自ら吾人の心が忍耐信望愛等總體  
 善徳に傾くか將又激怒弱信憤怨誹謗憎惡失望に傾くかを一層明白に  
 實見せしめんが爲め敵の吾人を誘ふを容すことわり故に吾人は憂々



鬱々たらず吾人の靈魂にある心の幽暗と吾人をして衰弱せしめ不忍耐と憎惡に傾かしむるの火愛悲壓迫等ハ吾人の屬神的生活上に免かるべからざるの數にして主が之を以て吾人が真正の道聖教及び徳義の道を誹謗せざるか邪道に心を傾けざるかを驗するものたるを知り悠然として之を忍ばざるべからず吾人は自由の者たり故に自ら充分力を盡して正義の道の爲め己の生命を捐つるに至るまで(約翰十五の十三參照)信と徳とを確守せざるべからずされど吾人に誘惑なくんば如何にして之あるを得んや。

○惡魔は司祭の心を襲ふに懶惰冷淡無結果を以てし之をして神の人に福音の眞理を傳へず神の旨の全般を傳へざらしめんとすること

あり祈禱の時彼は時として其心を動かし之をして無感覺ならしめ祈禱をして誠心に出せず單に習慣的たらしめんとすることあり敵は祈禱に於て其心を以て神の諸徳の威嚴と神の母と聖使徒并に諸聖人の威嚴を明察せざらしめんとす惡魔は時を擇ばず到る處汝の心の目を衝き之を味まし之を潰さんとする惡き棍棒たり彼は常に吾人の思想界の空氣中に翻々とし執念く心中に蟠居りて之を蝕し之を鑽通すの有毒なる塵芥なり惡魔は他の法教師に對しても亦冷淡と無結果と壓迫を以て其心を襲ひ之をして熱心の感情を以てハリストスの葡萄園の幼稚の枝に神の眞理を教授し福音の施生の清水を以て之に飲ましむること能はざらしめんとす。



○視よ世人相會すれば喋々喃喃多くは空談空論を闘すのみにして万民の父たる神のこと神の我等に對する愛のこと未來の生命のこと應報のふとには一言も及ぶことなし是れ抑も何故ぞ世人は神のことを言ふを耻るなり然るに最も怪訝に堪へざるは自ら敬虔の人たらんと欲する人自ら燈たる者にして己の家族の間や世間の人々の仲間に於て神のこと救主ハリストスのこと時の尊ぶべきこと節制のこと復活のこと審判未來の幸福永遠の苦等に關して言ふこと甚だ稀にして空談遊戯等に日を費すもの多きことなり是れ又是の如き談話を爲すを耻ぢ人を退屈せしめんことを恐れ若くは自ら屬神的の事物に就て言ふも終りを全うせず熱心に言ひ得ざるふとを危ぶむが故あり噫茲惡

及び罪の世なる哉人を偏視せざる万民の審判者の審判を施す日に於て汝禍なり己に屬する者に來れり而して己に屬する者は彼を受けざりき約翰一の十一然り萬民の主及び創造者は現に我等に受けられず彼は我等の家我等の談話の中に受けられず人或は聖書を読み或は聲高く祈禱を誦する時之を誦讀するに時として己むを得ざるに出てたる如く自ら好まざるが如く口訥るが如きことあるは何故ぞ其の言や心の溢るゝより出てす壓迫に由り口の空虚よりして辛ふじて出づ是れ何故ぞ他なし惡魔が其心の中に蒔きたる聖書の誦讀若くは祈禱を蔑視せしめんとするの邪念と偽りの耻より起るあり嗚呼吾人は憐れなる人なる哉吾人の自ら以て耻とする至大の名譽を如何にして可



なるか。嗚呼忘恩惡性の造物ある哉吾人は斯かる行爲を以て如何なる苦を受けんとするか。

○敵若し憂悲究困貧苦及び其他種々の困苦疾病諸種の災厄を以て、クリステイアニンの救贖の途を妨ぐる能はざる時は他の極端の方策を執り之と闘ふに健康安逸娛樂心の衰弱屬神的幸福に對する無感覺若くは現世の富を以てす嗚呼此の後の情態何ぞ夫れ危険なる此情態は前情態即ち憂悲究困の情態疾病の情態よりも危険なり此の如き情態に於ては吾人忽ち神を忘れ其恩を感ずるの情絶えて精神的に假寐熟睡せん新娶者の遅はるに依りて皆假寐して眠れり中夜呼ぶ聲ありて曰く視よ新娶者來る出て、彼を迎へよ馬太廿五の五、六されど憂悲に

際しては吾人常に神に向ひて救を求め常に神が吾人の救の神にして彼が吾人の生命吾人の吸呼吾人の光吾人の力たるを感ず故に「ハリスティアニン」は憂悲の中に生活するを勝れりぞす。

○祈禱は屬神的の呼吸あり吾人の祈禱しつゝ聖神にて呼吸す我等聖神に藉りて禱る猶太一の廿されば教會の祈禱は皆是れ聖神の呼吸にして恰も屬神的の空氣并に光屬神的の火屬神的の食屬神的の衣の如きものなり。

○聖神よ吾人「ハリスティアニン」は皆是れ爾の呼吸領洗後爾の産する所あり且夫れ爾が原人の面に最初創造的の氣を嘘入れたる故に由りて吾人此世の種族は皆爾の呼吸爾の産なり故に聖神よ我等衆人を憐み



我等を訓戒せよ爾の呼吸を以て我等の罪と愆との臭氣を逐ひ我等の諸罪の傾向の臭氣を散せよ。

○祈禱に於て常に汝の各思想汝の各言皆事實と爲るを得べく且必ず爲らんとするを確信記憶せよ神に在りて凡そ其言ふ所能はざることなし(路加一の卅七)而して主に附く者は主と一神と爲るなり(哥林多前書六の十七)されば汝の言も亦能はざる所なきや論を俟たず信する者には能はざる事なし(馬可九の廿三)汝須く言を慎め言は貴し人は凡そ虚しき言の爲め審判の日に於て之が答を爲さん(馬太十二の卅六)○言は真理の表顯真理其者實在及び事實あり言ハ各物質各物品に其過去現世若くは未來の存在の原因として之に先だつ我ハ「アリア」及び

「オメガ」始及終なり今在り先に在りし後に在らんとする者なり全能者なり(黙示録一の八)父の創造的言の言ふ所是の如し現在過去及び未來の諸造物の原因は彼れ言に在るなり。

○吾人が十字架を尊崇するの甚しき祈禱に於て至聖生神女及び在天の能力の保護を請ひたる後諸聖人を記憶するに先だちて之を記憶し若くは時として在天の能力を記憶するに先だちて記憶することあるは何故ぞ是れ他なし救主受難の後十字架は人の子の徴と爲り即ち十字架は籍身して吾人の爲に苦を受けたる神の子を象せればなり。ハリストスは十字架に於て我等の罪の爲め己を犠牲として神父に献じ十字架に於て及び十字架を以て我等を敵の奴役より救ひ出したる故に



吾人は斯く恭しく十字架を尊崇するなり故に十字架は信者に取りては常に之を諸悪就中見えざる敵の奸計より救ふの大能力たるなり。

○光と空氣と水は到る處に在りて互に相透入するも相混せずして各依然光は光たり空氣は空氣たり水は水として全く己の固有の性質を存し而して其本質惟一の物たる如く至聖三者の個位も亦稍之に似て常に偕に在りて互に相分れず父は子に在り子の父に在り聖神は父より出て子に宿ると雖も之と同時に各位は己の個位的性質を存して神父は生まれず造られず出て子は生まれ聖神は父より出づ而も三位の本質は惟一にして神聖的單純なり此の形容は吾人の主イエスハリストスの言に基づく即ち主自ら己を世の光と稱し聖神をば水の

作用に譬へ謂て曰く我を信する者の聖書に云へる如く其腹より活ける水の川は流れん之を言ひしは彼を信する者の受けんとする神を指せるなり(約翰七の卅八、卅九)又聖神を空氣若くは風に譬へて曰く風(神)の欲す所に吹く爾其聲を聞けども其の何より來り何へ往くを知らず(約翰三の八)又聖教會聖神のことを謳ふの言に曰く聖神堪ふる者に嘘けば速に之を地より擧ぐ(司祭埋葬式品第詞)

○主が凡そ其の欲する所の物例へば動物又は植物に肉体を與ふるは猶吾人が衣を裁して之を纏ふに同じ(爾は皮と肉とを我に着せ骨と筋とを以て我を編めり)〔約百記十の十一〕主造物主が己の造物禽獸魚介混蟲等の被覆として造る種々の衣の原質の多くして其種類の多端なる



何ぞ夫れ無限なるや而して彼れ將來己の國に於て我等も衣被するに  
 恰も太陽の如き光を以てせんとす皇后の爾の右に立ち妝ふに金の衣  
 を以てす(聖詠四十四の十義人は日の如く輝かん馬太十三の四十三)而  
 も今吾人は土と水と空氣と温暖とを以て衣とす吾人の服や今是の如  
 し此等の元素の吾人の體質中に調合せらるゝこと何ぞ夫れ睿智且簡  
 易なるや此調合や難からずして美なりア、睿智全能の工匠なる哉施  
 生の工匠なる哉爾の爲す所は何ぞ夫れ皆美且簡易にして施生的なる  
 や塵も爾に在りては活き塵も爾に在りては活動す。

○祈禱に於て首として慮るべきものは主に對する明確の活信なり汝  
 は己の前并に己の裡に明々地に彼を想見し其の欲する所のものを聖

神に於てハリストスイイスに由りて求めよ則ち汝に成らん單純に  
 毫も疑ふ所なくして求めよ然らば汝の神瞬間に偉大奇異の事を行ふ  
 者汝の爲に万事を成すこと猶夫の十字架の徴が大能力を行ふが如  
 くならん汝の己を他の信者と分たす乃ち自らハリストス教會の惟一  
 至大の体の肢として彼等と精神上の体合を爲しつゝ獨り己の爲のみ  
 ならず悉くの信者の爲め教會全体の爲に屬神的及び物質的の幸福を  
 求めよ然らばハリストスに於ける己の子として万民を愛する天父は

○汝は祈禱するに當りて深く祈禱の言よ意を注ぎ心に之を感銘せよ。  
 汝の智を祈禱より如何なる思想に傾くる勿れ汝は奉神禮の時機密



及び諸種の事件に就て祈禱式を執行する時祈禱するに當りて教會の祈禱には一言一句も空しく述べられたるものなく各其効力ありて言毎に在らざる所なく満たざる所なき三位一体の言自ら存するを信じて祈禱の言を堅く心に銘記し我は取るに足らざるものなり万事只主の爲す所なりと思へ又更に思へ我の言ふの神言の我に在りて言ふものなり我の何事をも慮らずして可なりと聖書に曰く凡そ爾等が慮る所を彼に託せよ蓋し彼は爾等を顧みるなり(彼得前書五の七)

○汝世俗の新聞雑誌を讀む時は快く事毎に信を措かんされと宗教的就中教會の書籍雑誌を讀み始むる時若くは祈禱を唱へんとする時は時として心中不快を覺え疑惑は汝を苦めて不信と一種の蒙昧嫌厭の

情起らん之を自認する人多し是れ何に由りて然るか固より書籍其者の性質に由るに非ず之を讀む人の性質其心の性質就中人間の敵總て神聖なる者の敵たる悪魔に由るなり悪魔來りて其心より言を奪ふ(路加八の十二)吾人世俗の書を読む時は吾人は其書を厭はず其書も亦吾人を厭はず只吾人聖書を讀み自己の悽改及び救贖のことを思念し始むる時は吾人は之に反抗し之を怒り之を憤り而して彼も亦吾人を攻撃し以て互に吾人を苦む如何にして可ならんか靈益と爲るの讀書祈禱の如き善事は決して之を放棄せずして乃ち宜しく忍耐し忍耐を以て己の靈魂を救はざるべからず主曰く忍耐を以て爾等の靈魂を救へ(路加廿一の十九)此言は劇場と聖堂舞臺と奉神禮にも適用せざるべ



からず。劇場に於ては人多く愉快を感ずるも聖堂に於ては快々鬱々たり是れ何故ぞ。他なし。劇場に於ては万事皆巧に感情的の人間の意を迎ふる如くに仕組まれ吾人は彼處に於て悪魔を厭はずして之を慰め彼も亦吾人を樂ましめ吾人を嫌厭せず窃に以爲らく我友よ宜しく自ら快を貪りて只管嬉笑せよ只神を記臆する勿れど聖堂に於ては万事皆信仰と神を畏るゝの心を起さしめ敬虔の情と吾人の有罪腐敗を悟るの念を起さしむる如くに作られ悪魔は吾人の心に疑惑憂悶無聊と奸悪汚穢誹毀の念を播く是を以て人自ら快然たらず座に堪へず一時間たりども立ち居ること難く忽ちにして逃れ去る劇場と聖堂とは正反對なり彼の浮世の會堂にして此は神の聖堂なり彼は悪魔の廟にして

此は主の殿なり。

○人あり汝に請ふに人の肉体上の死より救はるゝこと例へば溺死病死火災或は其他の災厄より救はるゝことを祈禱せんみとを以てする時之を請ふ者の信を稱譽し且自ら云へ汝の信は稱讚せらるべし主は汝の信に應じて我不當弱信ある者の祈禱をして應驗あらしめ我が信を増さんど。

○汝の神に對し若しくは人々に對して罪を犯す時は何事も容易く己に免す汝の他人をも亦容易く免せよ汝隣を愛すること己の如くにして之に多く免せよ我が兄弟我に罪を獲ば幾次之に免すべきか七次迄か主曰く我爾に七次迄と言はず乃ち七十次の七倍迄と馬太十八の廿



一、廿二愛の愛たる之に由りて知らるゝなり。且夫れ愛の爲には之のみにては猶足らず。愛は己の敵を愛し己を憎む者に善を爲し己を誼ふ者を祝福し己を虚ぐる者の爲に禱るなり。路加六の廿七、廿八。

○主は人心の洞察者なるを以て吾人が敢て報酬を受くるの望なき人を欸待矜恤すべき場合に際して吝嗇なると區々たる利慾的の節儉を爲さんとするを知り審判の日に於て當に吾人が飢者に食はしめ渴者に飲ましめ裸者に衣せ病者及ひ獄に在る者を顧みたることの爲のみならず、ハリステイアニ「若くは主の名に依りて不信者に一杯の冷水を飲ましめし者にも賞を興ふることを約したり。此の小子の一に唯冷水一杯を飲ましめん者は我誠に爾等に語ぐ其賞を失はざらん。馬太十

の四十二ア、ハリストスの心何ぞ鴻慈なる之を聞けば誰か己の心の残酷と醜陋極まる吝嗇とに耻ぢざらんや。

○悪魔は靈にして單純のものなるを以て奸惡疑惑誹謗性急激怒憎惡の意念の瞬間の一動作と心の俗事に戀々たる瞬間の動作并に偏私姦淫の動作及び其他の慾情を以て靈魂を蹂躪傷害し其の特有の狡猾と惡意を以て罪の火花を煽起し之をして人の内心に猛烈當るべからざる力を以て其勢を逞うする火焰と爲すを得ん。悪魔の詐僞忘想憎惡は其の初に之を排除して神の眞理を保ち全力を竭して之を守持せざるべからず。人は十分注意し全体に目を注ぎ總ての部分に於て破られず堅牢傷のけられざる金剛石と爲らざるべからず。ア、主よ爾の勝利に



光榮を歸す我は是の如くにして爾の權能に於て我が生命の有らん限り我が最後の息を絶つに至る迄見ゆると見えざるの敵に勝たんアミンア、信の簡單よ我を棄る勿れ。

○汝は常に飲食衣服宏壯美觀の住居豊ある家具什器に對して戀々たらざるのみならず己の健康己の生命に對しても毫も愛惜の私心を挾まず乃ち己の生命を悉く主の旨に委ねて我の爲には生くることハリストスなり死するも亦益あり(腓立比一の廿一)己の生命を斯世に惡む者は永生の爲に之を護らん(約翰十二の廿五)と云ふべし此世の生命健康を愛惜するの念は人をして神の誠に違背し身体を甘やかし齋を破り親切に職務を執行するの風を缺き憂悶性急激怒を起すに至らしむ

ること多し汝は毎夜決して晩課の祈禱を爲さずして眠り時ならぬ睡眠に由りて汝の心を頑にし敵をして祈禱に對する無感覺を以て汝の心を蹂躪せしむる勿れ(謹慎儆醒せよ彼得前書五の八)儆醒せよ祈禱せよ誘惑に入らざらん爲めなり(馬太廿六の四十一)故に儆醒せよ蓋し爾等は何の日の何の時に人の子の來らんことを知らま(馬太廿五の十三)故に儆醒せよ蓋し爾等は家主の何の時即ち暮に或は夜半に或は鶏鳴に或は平旦に來るを知らず我が爾等に儆醒せよと謂ふは即ち衆人に謂ふなり(馬可十三の卅五至卅)

○我が兄弟よ汝の家に怨恨憎惡の暴風起る時は神の母に祈れ至仁にして何事にも好んで佑助を予ふるの彼れは人の心を鎮靜すること極



めて容易なり。平和と愛とは惟一の神を己の源として之より出づるものなるに女宰は神に在り神と一にして且平和なるハリステスの母なる故全世界就中悉くの「ハリステア」の平和を熱心に希望し之を祈るなり。彼は己の指麾を以て人々の間に晝夜止まずして熱心に憎悪仇讎の種子を播く空中の奸悪の靈鬼を逐ふて我等より退くるの義侠心を有し凡て信と愛とを以て彼の有力なる庇護の下に奔り來る者に迅速に平和と愛とを賜ふ。汝自らも亦己の心に信と愛とを守ること熱心に努めよ。若し自ら之を慮らずんば神の母も汝等の爲に神の前に代求することなからん。且汝等常に自ら至上の主の母の熱心敬虔なる崇拜者と爲るべし。何となれば彼は常に福にして全く玷なく諸造物の上

に超然たる生神女人類の保護者を福なりと稱ふるは眞に當然さればなり。汝等又謙遜の精神を涵養すること力めよ。何となれば彼の謙遜なる世に其比なく獨り謙遜の者に愛を垂るればなり。彼エリサウタに對し己の神救主のことを謂て彼の其婢の卑しきを顧みたりと云へり。  
 (路加一の四十七、四十八)  
 ○爾は惡魔をして汝の心に隣に對する憎悪仇讎の種子を播かしむる勿れ之をして決して汝の心に巢窟を作らしむる勿れ。然らざれば汝の憎悪の念は假令言語に顯はれずして單に目睫の間に顯はるゝに止まるも視官に由りて汝の兄弟の靈魂にも傳染し何となれば憎悪の念は必傳染し易きものなり。就中心に勃々たる憎悪の念溢るゝ者に傳染し



易すければなり其憎惡の火花を化して炎々たる烟と爲すの恐あり故に宜く慎むべし何の量を以てか人を量らば是の如く爾等も量られん(馬太七の二)隠れて顯れざるものなく藏して知られず且露ならざるものなし(路加八の十七)

○誠心汝を誼ふ者を祝福するハリストス教的の好意を懷き以て汝に『爾等を誼ふ者を祝福せよといへるハリストスに悦ばれよ汝の敵の惡意には意を注がす彼等の由りて造られたる神の像を顧み彼等の裡に己れ自身を見て誠心爾の敵を愛せよ』汝は恩に負く者及び惡き者も慈愛を施す天の父の子として善の惡に勝つを信じ爾等を憎む者に善を爲せ』何となれば善は常に惡より強ければなり汝は爾等を虐ぐる者

の爲に祈れ若し神意に適はば汝の祈禱にて彼者を奸惡怨恨詭譎より救ひ己も虐より免るゝを得ん凡そ爾に求むる者には與へ爾の物を取る者には復た之を促す勿れ』路加六の廿七、卅五、廿八、三十何とあれば万物一として神のものに非ざるなく主若し欲するに於ては汝より悉く取り去るを得べければなり汝は自ら母の腹より裸にて出て裸にて去り自ら何物をも携ふること能はざる(約百記一の廿二)を記憶せよ汝若し此の如くにして生活したらんに愛と平和の價すべからざる寶を得て世に長命を保たん蓋し溫柔なる者は地を嗣ぎ平和の多きを樂まんと云へばなり(聖詠卅六の十一、馬太五の五)

○主宰よ我は心の目にて獨り汝を仰ぎ看我は疑ひなく汝を信す汝は



自ら我に何物を如何にして賜ふかを知る汝は諸善の泉にして諸造物に仁慈と睿智と全能とを注ぐ者なりア、女宰よ我の爾を仰ぎ看ると亦是の如し爾自ら我を護り我を憐れめよ。

○汝は己の裡に惡の常に善と戦ふを見て憂悶喪神する勿れ乃ち勤行の創立者イエススハリストスの善良勇猛なる兵士として夫の主宰が凡て此世に於て己の肉体に於て惡に勝つ者に備ふる所の榮冠を仰ぎ看つゝ毅然として惡と闘へ曰く勝つ者は我彼をして我と偕に我が寶座に坐せしめんと(黙示録四の廿一)

○汝は人の汝に對する憎惡を記憶せず誠心之を赦さんぐ爲め汝亦自ら他の諸愆と等しく憎惡の念を懷くを知れ汝は他人の荏弱及び情慾

を以て己のものご認めよ汝等互に相赦すこと神もハリストスに緣りて汝等を赦しゝが如くせよ(以弗所四の卅二)ア、我は我罪に依りて神の目と人々に對し并に已れ自身に對してすら如何に有罪にして如何に醜惡あるよ我が爲には我自身より醜惡なる人あるべきか實に何人も我より醜惡なる人あらざるなり我に比すれば人皆義人なり我は已に對しては無慈悲に怒り我取るに足らざる者に對する他人の侮辱過失を赦すことを以て特別の幸福と見做さん然らば恒忍慈憐矜恤の主は我にも幾何か我が罪過を赦さん我は只此れのみにて主宰の慈憐を求むるを得べく然らざれば我は夙に生活し得べからざりしを記憶せざるべからず。



○斯世の生活は何ぞ夫れ災厄多く辛苦艱難多くして凌ぎ難きや。日々朝より夕に至るまで靈魂を襲ふ肉体の慾、首領權柄、此世の暗昧の君天空に在る凶惡の諸神、以弗所六の十三、即ち奸計譎詐の測るべからざるほど陰險巧妙にして且片時も倦むことなき者と苦戦せざるべからず凡そ勞苦する者及び重を任ふ者を安息せしめんが爲に己に招ぐの我が最愛の救主よ。我が心我が腹が日々の闘争と憂悲に由りて疲困疲勞し衰弱して影の如くに歩むことは爾の見る所の如し。我等の奸惡なる敵は絶えず吾人の靈魂を腦まし百方術を盡して吾人を失望の淵に陥れんとす。主宰よ願くは爾の手を伸べて我等を古の龍兇殺者の奸計より救へ。爾は言へり人若し我に従はんぞ欲せば己を捨て日々其十字架

を負ひて我に従へど路加九の廿三、而も日々吾人の十字架吾人の憂悲煩悶の因たるものは果して何ぞ吾人の舊き肉体的の人及び惡魔と其れ絶えざる奸計なり。  
 ○情慾と闘ふに際し又は罪を行ひ悔改するに及んで主を仰ぎ視るときは吾人の擾亂したる心鎮靜して吾人の顔は奇妙に晴々と爲るなり。我が心に樂を滿たせり主よ爾の顔の光を我等に顯し給へ(聖詠四の七八)ア、吾人が信仰の力と心の目にて我等の心の神を仰ぎ視るときは吾人の顔如何に晴々なるよ。其時には愛の日に我を呼べよ我爾を脱れしめん(聖詠四十九の十五)憂の時我彼と偕にし彼を脱し彼を榮せん(聖詠九十の十五)と宣ひし主は實に我等と偕にあるなり。ア、至仁恒忍よ



して日々七十次の七十倍まで誠心痛悔して爾に赦免を請ふの我等に  
罪過を赦さんとするの神よ時々刻々爾に對して多く罪を犯すの我等  
を憐めよ「アミン」

○夫れ飲食物たるや一方より見れば極めて取るに足らざるもなるも  
又一方より見れば之よて養はるゝ人間は如何に測るべからざる威嚴  
を具ふるよ人間——即ち此の神の像の爲め此の神の本性に與かる者の  
爲め神が之が爲め万有の中に万事たらんとする者の爲め哥林多前書  
十五の廿八飲食物衣服住居等凡そ此世のものを惜むは豈至愚と非すや  
無神に非すや塵は之を塵とし不死なる神の不死の像は常に此世の朽  
つべく速に亡ふべき物の上に崇め貴ぶべし故に吾人は我等の隣の爲

に何物たも惜まざらん神の像を養ひ之に衣せ之を安息せしむるはア  
、是れ何たる至大の名譽ぞ至仁至慈の神よ我等の心に仁慈と博愛と  
を滿てよ。

○神の聖人は心の明かなる目を有し以弗所一の十八此の目にて罪に  
て傷められたる吾人の本性の需用を明察し吾人が如何に祈禱すべき  
か何を求むべきか何の爲に感謝すべきか如何に主に頌讚すべきかを  
明に洞見し吾人に貽すに諸種の祈禱の優美なる摸範を以てしたりア  
、此の祈禱何ぞ其れ美なるや吾人の時として之を感せず其價を知ら  
ざるも飲食物の價流行衣服の價善く裝飾されたる家屋の價演劇の價  
音樂の價世俗の文學即ち浮華空漠の贅文たる稗史小説の價能く之



を知り祈禱の貴き眞珠は己の足にて之を蹂躪す俗界のものは皆多くの  
 人々の心中に廣き棲家を得れども祈禱に至りては惜哉其心中に狭  
 隘なる隅をも得る能はず之に容れられず彼れ祈禱若し吾人に請ふて  
 片足ありども之に入る時は吾人は直に之を乞食の如く婚禮の服を着  
 ざる人の如くよして衝き出すあり。

○汝は成るべく多く善行就中愛の寶を得んことを努むる眞正の「ハリ  
 ステイアニン」として凡そ人に愛嬌を施すの機會に遭ふ毎に喜べ汝に愛  
 嬌を施さるゝ時は之を受くるに堪へざる者と自認して敢て喜ぶこと  
 なく只汝が人に愛情を表する機會を得るに際して喜べ愛は即ち單純  
 のものたる神其者なりと記憶して淡泊に毫も邪惡に其意を傾くること

となく此世の區々たる利慾的の野心を挿まらずして愛を施せ汝須く彼  
 (神)が汝の凡ての途を監視し汝の心の凡ての思想動作を洞見すと記憶  
 せよ。

○凡そ人の爲め其人の願に由り或は其親戚朋友知己又は之を崇敬す  
 る人の求めに由りて祈るの機會に遇い、之を空過する勿れ。主は我等  
 の愛の祈禱と我等の彼に對する勇奮の念とを眷顧し給ふ。加之他人の  
 爲よするの祈禱は他人の爲に祈る其人に取りても益する所多し即ち  
 此祈禱の心を清め神に對する信と望とを固うし神と隣に對するの愛  
 を熱す。汝は祈禱しつゝ曰へ主よ爾は此の爾の僕に云々の事を行ふと  
 能くす請ふ之を行へ蓋し爾の名の仁慈にして人を愛する全能者なれ



ばなり。我等惡き者なるに尙善き賜を雷に己の子にのみならず他人にも與ふるを知る況や爾は爾に求むる者に有らゆる善き物を與へざらんや。馬太七の十一

○主我等の父我の爾及び隣に對する愛を試むる睿智者よ爾に光榮を歸す。若し我をして誘に遭はしむること爾の睿智と公義とに適ひ且有益ならんに我が生命の一日たりとも我をして之を脱れしむること勿れ我の爾及び我が隣に對する愛は扶殖せられ堅定せられ清められ高尚にせられ爾の審判に於て爾の面前に瘦せて現はるゝを免かれん。  
○我は微力の人たるも我が力の能くする範圍に於て爲さんと欲する所の事あれば則ち之を爲す例へば文を作らんと欲すれば之を作り病

を愈さんと欲すれば之を愈し物を造らんと欲すれば之を造り例へば家屋又は聖堂を造らんと欲すれば之を造る又或人に向つて來れと云へば來り去れと云へば去り爲せと云へば爲すとせんには全能の神苟も欲する所のもの豈之を爲さざらんや。我等の神は天に在り地に在り凡そ欲する所を行ふ聖詠百十三の十一若し人間は時として何事をか爲さんとして只二語を發すれば其事假令忽ち成らざるも時經て成るとせんには造物主の言にて命令せらるゝもの豈立ちに成らざらんや凡そ彼の欲する所のものは彼の一言に由りて忽ち成るに非ずや彼言ふて即ち成り命じて即ち造られたり。聖詠百四十八の五吾人は人間の造者に非ざるも彼等は吾人の言に従ひて爲す所此の如く夫れ多し



吾人の万物の造化主に非ざるも万物は吾人の希望と作用に由て其形を幾千種に變じ無數の需要快樂の用に供す吾人は万物の造化主にあらざるも物質を以て大小の物品を造る然らば夫の在らざる所なく満たざる所なく其言に由りて万物は無より出てゝ存在を受け其意思と旨と言とに由りて千種萬別勝て數ふべからざるの万物を創造し之を維持する所の造物主其者は豈其の欲する所のものを造らざらんや若し人間たる醫師にして能く醫術を知り病根に効力を及ぼすの巧みなる故に由り時として半死半生の患者を蘇生することありとせんには醫師及び醫術の造者たるもの豈一の希望と言とを以て凡ての病を愈さざらんや造物主豈一言を以て死者をも起たしめざらんや吾人薄信

の徒は須く彼に光榮を歸し誠心彼に向ひて曰はん主宰よ爾は凡ての事を爲し一として爾の爲し能はざる所のことなしと「アミン」。

○ア、爾全能の主宰一たび招けば万物有形無形の世界悉く其の命に従ふ者願くは我をして絶えず爾の無限の全能に對する信の單純を以て爾を讃揚せしめよ願くは我に賜ふに耻ぢざるの信と確乎たる望と爾及び隣に對する偽善に非ざる愛を以てせよ。

○彼(神)は万物より先にして万物は彼に由りて立つ(哥羅西一の十七得て測るべからざる絶大の意此言に含有す此言は主が曾てモイセイに己を名づけ給ひし「有る者」といへる名稱の意義を説明す蓋し有る者とは万物の先にあり万物の由りて以て存する所の者たるを示すなり此



言は亦我等の主宰—神の全能と無限の仁慈と測るべからざる睿智と  
を示すなり吾が主は大にして其力は大あり其智慧は測り難し(聖詠百  
四十六の五)

○汝若し人々の相會する所に於て汝の知る所の人を招けば彼汝の許  
に來り汝若し汝に昵近の人々若くは其一人に汝の爲め其力の能くす  
る範圍に於て何事を爲さんことを求めば彼必ず其事を行ひ以て汝  
の望を満足し或は汝の望外に出ることあらんには神の聖堂即ち天地  
の兩分に區別せらるゝ此の神の大なる家に於ても汝が呼ぶ所の教會  
の人は其の本來の仁慈博愛に由りて冥々裡に來りて汝を援くるを信  
じ汝の欲する所のこと就中神の國と神の義とに關することを汝の爲

め爲さんことを求めよ乃ち彼は仁慈と能力の本源たる神と親密なる  
に由りて汝の爲め汝の欲する所のことを爲さん神の聖人等が汝の言  
を聞くこと猶汝が聖堂に於て祈禱し若くは語を發する時堂内は集會  
せる人々の其聲を聞くが如し何となれば彼等ハ聖神に在り而して聖  
神に到る處に万物を満たせばなり。

○吾人の自愛と驕傲の就中不忍耐と激怒に於て顯はる即ち他人の故  
意に若くは故意に非ずして吾人に加へたるの不快又は人々或は吾人  
を圍繞する物の當然に若くは不法に故意に若くは故意に非ずして吾  
人に加へたるの妨碍は吾人聊も之を忍ぶ能はず吾人の自愛と驕傲は  
有らゆるものを己の意の如くならしめんとし富貴名譽を博して安樂



の生活を營み人をして皆唯々諾々迅速に我が命に従はしめんとし甚しき傲慢の極萬物をして我が命の如くならしめんとす而も禍なる哉吾人自身の信仰と凡ての善事と萬民の唯一の主宰の悦ぶ所の事を行ふことには甚た鈍し「ハリストス・ティアニン」よ汝は己の泥たり塵たり微々取るに足らざる者たるを記憶し汝自ら不淨汚穢にして凡そ汝に有る所の善は皆神のものたるを記憶し生命呼吸及び凡てのもの皆神の賜たるを記憶し不順不節制の罪の爲め汝は今此吾人と同棲し罪にて汚されたる唯一の人類の諸肢を成す墮落したる人々の不完全と無數の罪に貫盈したる世界に必要欠くべからざる忍耐を以て未來の樂園の幸福を贖はさるべからざるを記憶して必ず謙遜溫柔恒忍を旨とせよ

るべからす爾等互に荷を負へ是くの如くして「ハリストス」の法を盡さん(加拉太六の二)凡そ忍耐心弱く激怒し易き者は己と人類との真相を解せざる者にして「ハリストス・ティアニン」と稱するにも堪へざるものあり予之を言ふて己に裁判を宣告す何となれば予は首として不忍耐と性急に惱めばなり。

○吾人の生活の兒戲のみ但其兒戲や無邪氣に非ずして有罪的なり何となれば吾人は己の生命の目的を確知承認するに拘はらず此目的を蔑視して空漠たる没目的の事に汲々たればなりされば吾人の生活は怒すべからざる兒戲たり吾人は必要なる身体の榮養及び肉体の生命の維持の爲にのみ飲食物を使用するの代り美味を嗜み徒らに飲食物



を以て樂とす吾人は己の身体を五行の有害なる作用より預防せんが爲め衣服を以て適宜に己の身体を蔽ふの代りに徒らに衣服を以て娛樂の用に供す吾人は必要に應じて金銀を使用し剩餘あれば之を貧困者に頒つての代りに金庫に藏めて自ら樂み或は驕奢快樂の用に供して徒らに之を弄ぶ吾人は吾人を五行の有害なる作用より防ぐの堅牢適當の家屋と家事用の爲め必要適當なる器具のみを有する代りに己の住宅を美にし器具の數を多くし之を飾立て自ら樂みとす吾人は己の靈魂の賜智慧と想像と言を以て首として専ら神に對する務萬物の睿智の造者たる彼を識ること祈禱懇求感謝讚榮と相愛尊敬を表するの用に供し僅に其一部を以て時到れば全く過ぎ去らんとする此世

の務に供するの代り唯徒らに罪と此世の虚事塵界の朽ちべき務にのみ供す吾人は此世の空漠たる事物を研究することを以て樂みとし永遠に準備するが爲め予へられたる貴重の光陰を以て之に徒費す吾人は己の職己の義務を行ふと輕卒粗略不實にして此世の私利の目的に之を用ゐる之を弄ぶこと慙からず吾人は人の美貌若くは艶麗纖弱なる女性を弄び往々己の情慾の戲に之を供することあり吾人は永遠を贖ふが爲め巧に利用して遊戯及び諸種の快樂に供すべからざる光陰を徒費することあり遂に吾人は己を以て一種の偶像と爲し自ら其前に拜伏し且他人の之を崇拜せんことを求む嗚呼吾人の頑愚と吾人の至大の虚妄吾人の自ら好んで招きたる大災難は誰か能く充分に之を